

学校要覧
2016



独立行政法人 国立高等専門学校機構

岐阜工業高等専門学校

National Institute of Technology, Gifu College



科学技術に夢を託し、 人類愛と郷土愛に目覚める



シンボルマーク



本校のシンボルマークは公募により、建築学科の柴田良一教授の案が採用された。このシンボルマークは、本校から遠くに望む山並みと広がる空をイメージとし、緑色は学科を、空色は専攻科を表し、この二つが一体となって、高く、大きく伸び広がる可能性を表現している。また、スクールカラーであるエンジ色のダイヤモンドを、卒業生の母校を誇りに思う気持ちの結晶として埋め込んでいる。

校章



校章はかつての旧帝大が共通に用いていた徽章のもつ素朴、堅実、伝統を象徴するイメージをとり、大学の徽章の輪郭の中に、高専の文字を配したデザインとし、模様や図案を全く加えないもので、やがて卒業生が大学を卒業した者に伍して、人物、識見とも勝るとも劣らぬ技術者として活躍するであろうことを念願してデザインされたものである。

国立岐阜工業高等専門学校(岐阜高専)は、全国に51校ある国立高等専門学校の1つで、独立行政法人国立高等専門学校機構に所属しています。国立高専には、全国で約5万3000人の学生がいます。

岐阜高専は、設立されて50数年がたちますが、中学卒業生を対象に教養教育と工学の早期専門教育を5年間一貫で施すことによって、実践的技術者を育てる伝統ある学校です。卒業後は多様な選択肢があります。

まず、技術者として企業人や公務員として活躍することができます。産業界などから、高い評価を受けています。また、2年間の高専の専攻科に進学するか、7大学を始めとして多くの国公立大学が3年生編入定員枠を提供しており、複数の大学の編入学試験を受けられますので、これらの大学に編入学して学士の資格を得ることもできます。その後さらに、大学院に進む道もあります。岐阜高専では、約半数の学生が大学・大学院に進学します。このように、岐阜高専に入学すれば、自分の選んだ工学の専門分野について、早い時期に、より深く学ぶことができ、その後も自分に適した技術者、公務員および研究者など多様な道を選ぶことができます。この高専の教育システムは、国の内外で高く評価され、この制度を取り入れる諸外国も出てきています。

岐阜高専は、現在、機械工学科、電気情報工学科、電子制御工学科、環境都市工学科、建築学科の5つの専門学科と3つのコースを持つ専攻科(先端融合開発専攻)があり、人文・自然分野の一般科目と合わせて、経験豊かで優れた教授陣が教育と研究に当たっています。各学科や専攻科について、この学校要覧は詳しく記述しています。

広いキャンパスと整った設備、少人数教育、多彩なクラブ活動、高専体育大会、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、デザインコンテスト、プレゼンテーションコンテストなどの機会、また、専攻科では外国の大学等へのインターンシップなど国立高専ならでの恵まれた環境の下で、伸び伸びと勉学、課外活動および人間形成に取り組めます。高専に入学すると、大学生と同じように「学生」と呼ばれます。これは、皆さんが実践的専門教育と教養教育を同時に受け、責任と自覚をもって今後高専で活動していただくためです。このような特長を有する岐阜高専への皆さんのご入学を歓迎します。



岐阜工業高等専門学校
校長 伊藤 義人

目次

■ 本校の沿革	4-5
■ 本校の概要と教育方針	6-7
■ 「環境システムデザイン工学」教育プログラム	8-9
■ 一般科目	10-11
■ 機械工学科	12-13
■ 電気情報工学科	14-15
■ 電子制御工学科	16-17
■ 環境都市工学科	18-19
■ 建築学科	20-21
■ 専攻科	22-23
■ 学校行事	24-25
■ 学生会	26
■ 専門展	27
■ 国際交流室活動	28-29
■ 地域貢献	30-31
■ 図書館	32
■ 情報処理センター	33
■ 学寮	34
■ テクノセンター	35
■ 組織	36-37
職員の現員	36
機構図	36
役職員	37
事務部役職員	37
学校医等	37
■ 教育課程	38-41
■ 学生	42-43
入学定員学生数	42
外国人留学生	42
奨学生	42
出身県別学生数	43
専攻科出身学校別学生数	43
入学志願者数及び倍率	43
編入学志願者数及び入学者数	43
専攻科志願者数及び入学者数	43
■ 卒業生の進路	44-45
■ 財政	46
■ 施設	47

本校の沿革

昭和 37 年 11 月	社団法人岐阜工業高等専門学校設立協力会の設立認可
昭和 38 年 1 月	岐阜工業高等専門学校を岐阜県本巣郡真正町に設置決定
//	岐阜県各務原市鷺沼中学校（現鷺沼第一小学校）に仮校舎内定
昭和 38 年 4 月	本校設置、機械工学科、電気工学科、土木工学科の3学科で発足
//	初代校長に前岐阜大学工学部長 理学博士・飯沼弘司任命
昭和 39 年 3 月	第1期工事（1号館、寄宿舎A寮等）竣工
//	仮校舎から本校舎へ移転
昭和 39 年 6 月	図書館開館
昭和 40 年 3 月	第2期工事（2号館、実習工場、寄宿舎D寮）竣工
昭和 41 年 3 月	第3期工事（3号館、第一体育館、寄宿舎C寮等）竣工
昭和 41 年 4 月	事務部に庶務課及び会計課設置
昭和 41 年 12 月	武道館開き
昭和 42 年 5 月	プール開き
昭和 43 年 1 月	合宿所（凌雲荘）竣工
昭和 43 年 4 月	建築学科増設
昭和 44 年 3 月	第4期工事（建築学科棟、寄宿舎 B 寮等）竣工
昭和 46 年 4 月	事務部に学生課設置
昭和 47 年 3 月	図書館センター竣工
昭和 47 年 11 月	創立 10 周年記念式典挙行
昭和 48 年 2 月	電子計算機室増設
昭和 49 年 4 月	安藤記念館採納式挙行
昭和 53 年 4 月	第2代校長に前名古屋大学工学部長 工学博士・古屋善正任命
昭和 53 年 8 月	第13回全国高等専門学校体育大会を主管、開催
昭和 54 年 3 月	学校施設開放管理センター（第二凌雲荘）、排水処理施設竣工
昭和 55 年 3 月	第2体育館竣工
昭和 56 年 7 月	4号館竣工
昭和 58 年 11 月	創立 20 周年記念式典挙行
昭和 59 年 4 月	第3代校長に前岐阜大学工学部長 理学博士・脇田仁任命
昭和 60 年 3 月	福利施設（伊吹）竣工
昭和 63 年 4 月	電子制御工学科増設
平成 2 年 3 月	5号館竣工
平成 3 年 4 月	第4代校長に前豊橋技術科学大学教授 工学博士・沖津昭慶任命
//	外国人留学生受入れ開始
平成 4 年 3 月	男子寮（D 寮）を女子寮に改修
平成 4 年 4 月	学校週5日制実施
平成 4 年 10 月	韓国東洋工業専門大学と学術交流協定の調印
平成 5 年 4 月	土木工学科を環境都市工学科に改組
平成 5 年 10 月	創立 30 周年記念式典挙行
平成 6 年 6 月	寄宿舎 D 寮竣工
平成 6 年 9 月	グラウンド改修



鷺沼校舎（昭和38年1月）



1号館（昭和39年3月竣工）



けやき植樹（昭和58年10月）

平成 7 年 4 月	専攻科設置
平成 8 年 3 月	寄宿舎（B・C寮、女子寮）改修
平成 9 年 3 月	専攻科棟竣工
平成 10 年 4 月	第5代校長に前豊橋技術科学大学教授 工学博士・小嶋正光任命
平成 11 年 8 月	寄宿舎（管理棟、食堂、浴室）改修
//	太陽光発電設備設置
平成 12 年 4 月	電気工学科を電気情報工学科に改組
平成 12 年 10 月	3号館一部改修（教室の狭隘解消工事）
平成 12 年 12 月	マルチメディア教育棟竣工
平成 13 年 3 月	電気情報工学科棟改修、増築
//	1号館一部改修、増築、2号館、教室棟、5号館一部改修（教室の狭隘解消工事）
平成 13 年 8 月	寮管理棟、第2女子寮、男子浴室、学寮食堂改修
平成 15 年 1 月	校名看板設置（D寮屋上）
平成 15 年 4 月	創立 40 周年記念式典挙行
平成 16 年 4 月	独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する岐阜工業高等専門学校となる
平成 16 年 5 月	環境システムデザイン工学が JABEE 技術者教育プログラムとして認定
平成 18 年 4 月	第6代校長に前豊橋技術科学大学教授 工学博士・榊原建樹任命
平成 19 年 3 月	平成18年度大学評価・学位授与機構による機関別認証評価認定
平成 21 年 4 月	環境システムデザイン工学が JABEE 技術者教育プログラムとして継続認定
平成 22 年 3 月	地域技術開発・教育センター改修
平成 23 年 2 月	情報科学芸術大学院大学（IAMAS）と学術交流協定の調印
平成 23 年 4 月	第7代校長に前豊橋技術科学大学教授・環境生命工学系長 工学博士・北田敏廣任命
平成 23 年 7 月	豊橋技術科学大学・東海地区5高専（岐阜、沼津、豊田、鈴鹿、
平成 23 年 11 月	インドネシア・バンドン工科大学と学術交流協定の調印
平成 24 年 7 月	マレーシア工科大学と学術交流協定の調印
平成 24 年 9 月	ドイツ・ハノーバー大学数学・物理学部と学術交流協定の調印
平成 25 年 4 月	アメリカ合衆国・アイオワ大学と学術交流協定の調印
平成 25 年 9 月	機械工学科棟改修
平成 25 年 11 月	創立 50 周年記念式典挙行
平成 26 年 3 月	平成25年度大学評価・学位授与機構による機関別認証評価認定
平成 26 年 6 月	ウズベキスタン・トリノ工科大学タシケント校と学術交流協定の調印
平成 27 年 4 月	環境システムデザイン工学が JABEE 技術者教育プログラムとして継続認定
平成 27 年 9 月	ウズベキスタン・タシケント工科大学と学術交流協定の調印
平成 28 年 1 月	ウズベキスタン・タシケント自動車道路建設大学と学術交流協定の調印
//	1号館エレベーター新設
平成 28 年 2 月	フランス・リール第一大学附属工業短期大学と学術交流協定の調印
//	環境都市工学科棟改修
平成 28 年 3 月	第1体育館等改修
平成 28 年 4 月	専攻科（電子システム工学専攻、建設工学専攻）を専攻科（先端融合開発専攻）に改組
//	第8代校長に前名古屋大学工学研究科社会基盤工学専攻教授 工学博士・伊藤義人任命



創立50周年記念碑（平成25年4月除幕）



50周年史（平成25年）

本校の概要と教育方針

1 概要

岐阜工業高等専門学校は、昭和38年4月に、機械工学科、電気工学科及び土木工学科の3学科を専門学科とする国立の5年制高等教育機関として設置されました。昭和43年には建築学科が、昭和63年には電子制御工学科が増設され5つの専門学科を持った学校として整備・拡充されました。さらに、社会の進歩や変革に見合った教育課程の改革を行うために、平成5年には土木工学科が環境都市工学科に改組され、平成12年には電気工学科が電気情報工学科に改組されました。また、高専教育の一層の高度化を目指して、平成7年には学士の取得が可能な修業年限2年の専攻科が設置されました。専攻科設置後、平成15年には専攻科修了生の学力及び技術力を国際的に保証するため、本科4年生から専攻科2年生までを対象とした体系的な「環境システムデザイン工学」の教育プログラムを準備し、日本技術者教育認定機構（JABEE）の審査を受け、JABEE認定校を取得しました。続いて、平成16年から全国の国立高専が独立行政法人へ移行されたことに伴い、より一層の「個性化、活性化、高度化」を目標に掲げ、今日に至っています。

本校の教育は、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為な人材を育成する」ことにあります。学生が社会で実践的技術者として活躍できるように、高等学校3年間と大学の前半2年間を合わせた修業年限5年間において、高等学校と同様な一般科目ならびに大学と同様な専門科目の中から、本校独自に精選した教育課程を編成し、効率的に5年間一貫教育を実施していることが特徴です。

専門学科は、それぞれ学科の特色を活かした教育課程を用意しており、社会の推移や要請に応じて教育課程自体も更新・改善され、学科ごとに学生受入れ方針が示されています。本校で学修する専門科目の内容は大学レベルと同等であり、「ものづくり」教育を重視した様々な実験や実習を通じて、学生は学んだ理論を広く応用し展開する実践的な能力を修得することが可能となります。また、修業年限5年の本科の教育課程を修了後、本校の専攻科において、一段と深く専門分野に関する学芸を学修し、あわせて、学術研究活動を通じてその成果を社会に還元する道が開かれています。

本校の教育課程の特徴は、中学校卒業後の早い段階から、実験・実習・実技などの体験的な学習を重視したきめ細やかな少人数教育を行うことにより、産業界の期待に応えることが可能な実践的技術者を継続的に輩出していることです。また近年では、より高度な知識や技術を修得するために、本科卒業生の約半数の学生が専攻科への進学や大学編入学への進路を選択しています。

2 教育の基本方針

本校への多様な役割が期待される中において、高等学校や大学とは異なる高等専門学校本来の魅力を一層高めるといふ使命に燃え、日本の産業構造の国際化ならびに高度化に伴う急速な変化に柔軟に対応できる学力や創造力に加えて、環境に配慮した人間性豊かで倫理観を備えた技術者を育成することが本校の教育方針であります。教育理念、教育目標及びその具体的な内容は不断に改善し、計画的に教育・研究活動を実行しています。より具体的には、以下に示すような「教育理念」、「養成すべき人材像」及び「教育目標」を高く掲げ、教職員はその目標に向かって努力します。

3 教育理念

- (1) 科学技術に夢を託し、人類愛と郷土愛に目覚めること。
- (2) 国際性豊かで世界に羽ばたく気概を持つこと。
- (3) 情報化社会の最前線で活動すること。

4 養成すべき人材像

科学技術に夢を託し、人類愛に目覚め国際性豊かで情報化社会の最前線で活躍する技術者

5 教育目標

準学士課程

- (1) 広い視野を持ち、自立心と向上心に富み、教養豊かな技術者の育成
- (2) 基礎学力を身につけ、創造力、応用力、実践力を備えた技術者の育成
- (3) 国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成
- (4) 工学技術についての倫理観を有した技術者の育成
- (5) 教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成

専攻科課程

- (1) 得意とする専門分野をさらに深めるとともに、異分野を理解し複数の分野にまたがった思考力を備えた技術者の育成
- (2) 社会の要求するテーマを創造的に調査・企画・設計・計画し、継続的に解析・実行・改善できる問題解決能力を備えた技術者の育成
- (3) 的確な日本語と国際的に通用するコミュニケーション能力を備えた技術者の育成
- (4) 先端情報技術を駆使して専門分野のプログラムを構築する能力を備えた技術者の育成
- (5) 多様でグローバルな視点の倫理的判断ができ、技術者の社会的責任を理解して地域貢献できる技術者の育成

6 各学科・専攻科で養成すべき学力及び資質・能力等の具体的な学習・教育目標

各学科・専攻科で養成すべき学力及び資質・能力等の具体的な学習・教育目標を (A) 倫理、(B) デザイン能力、(C) コミュニケーション能力、(D) 専門知識・能力、(E) 情報技術に分類して、その内容を定めています。また、本校では学生に5つの標語を示しています。教育目標との対応を以下の表に示します。

「学校の教育目標、各学科で養成すべき学力や資質・能力等の具体的な学習・教育目標の分類及び標語との対応」

(準学士課程) ◎は特に関与、○は関与

学校の教育目標	(A) 倫理	(B) デザイン 能力	(C) コミュニケーション 能力	(D) 専門知識・ 能力	(E) 情報技術
(1) 広い視野を持ち、自立心と向上心に富み、教養豊かな技術者の育成	◎	○			
(2) 基礎学力を身につけ、創造力、応用力、実践力を備えた技術者の育成		◎		◎	
(3) 国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成			◎		◎
(4) 工学技術についての倫理観を有した技術者の育成	◎				
(5) 教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成	○	◎		◎	
標 語	広い教養	ものづくり	国際化	深い専門	IT

(専攻科課程) ◎は特に関与、○は関与

学校の教育目標	(A) 倫理	(B) デザイン 能力	(C) コミュニケーション 能力	(D) 専門知識・ 能力	(E) 情報技術
(1) 得意とする専門分野をさらに深めるとともに、異分野を理解し複数の分野にまたがった思考力を備えた技術者の育成				◎	
(2) 社会の要求するテーマを創造的に調査・企画・設計・計画し、継続的に解析・実行・改善できる問題解決能力を備えた技術者の育成		◎			
(3) 的確な日本語と国際的に通用するコミュニケーション能力を備えた技術者の育成			◎		
(4) 先端情報技術を駆使して専門分野のプログラムを構築する能力を備えた技術者の育成					◎
(5) 多様でグローバルな視点の倫理的判断ができ、技術者の社会的責任を理解して地域貢献できる技術者の育成	◎				
標 語	広い教養	ものづくり	国際化	深い専門	IT

「環境システムデザイン工学」教育プログラム

岐阜工業高等専門学校 日本技術者教育認定機構 (JABEE) への取り組み

1 目的

岐阜工業高等専門学校では、国際的技術者としての素養を身に付けることを目的として、「環境システムデザイン工学」教育プログラムを実施しています。これは、本校の本科4、5年及び専攻科1、2年のカリキュラムによって構成されるもので、「日本技術者教育認定機構 (以下JABEEという。)」の認定を得ています。本教育プログラムの課程を修了した学生には、国際的な技術者資格である技術士の第一試験が免除され、技術士の基礎資格である修習技術者の資格が与えられます。

2 本教育プログラムの概念

人類が地球上で持続的に発展していくには、生産に関わる各種資源物質の枯渇の防止と、地球上の生態系に影響を及ぼす諸物質の拡散防止などへの配慮が欠かせません。このためこれからの「ものづくり」においては、人間の労働や知的活動を支援し、より快適な社会生活を営むための人工環境を提供する一方で、地球環境の保全や循環型社会の構築に対する配慮が重要になっています。

「環境システムデザイン工学」教育プログラムでは、社会生活上必要な各種「機能」とそれを実現する「もの(機械、電気・電子機器、建築物、社会基盤)」、「空間(生活、都市、自然)」、「エネルギー」、「知識・情報」及びそれらの「制御・管理」などから構成される「環境システム」を、地球環境の保全を考慮に入れて構想し、設計し、生産する、総合的デザイン能力を育成することを目的としています。

3 本教育プログラムが目指すエンジニア像

本教育プログラムが養成することを目指すエンジニアは、得意とする専門分野を持ち、またこれと異なる分野の技術システムを理解して、機械、電気、電子、情報、建築、都市などの機能を複合したシステムを、人間の感性や環境の特性などを配慮しつつ開発する能力を持ち、情報技術と英語をツールとして駆使しながら、国際的なフィールドで指導力を発揮できる人物です。

■ 環境システムデザイン工学教育プログラムの学習・教育到達目標、具体的な達成目標

(2014年度本科第四学年進級者以降)

	学習・教育到達目標	具体的な達成目標
(A) 倫理	(A-1) 社会倫理 人類の歴史的な背景・文化を理解し、他者・他国の立場を尊重し、グローバルな規模で社会問題や環境問題を捉えるという人間としての倫理を身につける。	①多様性の理解 世界各国の歴史、文化、習慣、風土、経済等を理解し、他者・他国の立場を尊重することができる。 ②グローバルな視点 グローバルな規模でエネルギー問題、社会問題、環境問題等を捉え広い視野にたった倫理的判断ができる。
	(A-2) 技術者倫理 科学技術が地球環境に及ぼす影響等に責任を自覚する技術者としての倫理を身につける。	①社会問題の科学的理解 環境問題やエネルギー問題を科学的に理解している。 ②技術者の社会的責任 自己、企業、国に課せられた責任(公衆の健康・安全・福利の最優先及び環境への配慮)を理解している。
(B) デザイン能力	(B-1) 計画 実務上の問題点や新たな課題を理解し、豊かな発想で自発的に問題を解決するための計画を立てる能力を身につける。	①調査・検索能力 社会ニーズの市場調査や論文調査・特許検索等ができ、社会の要求するテーマあるいはレベルを設定することができる。
		②企画・創案能力 調査・検索等に基づき、創造性溢れるテーマや企画等を提案できる。
		③問題抽出・検討能力 課題や構想を実現する過程で発生する実務上の問題(製作手法、製作材料、耐久性、経済性、安全性、機能性、倫理性、環境問題等)を予想・抽出し、実現可能なものかどうかを検討・判断できる。
		④設計・計画能力 得られた知識・技術に創造性を加え、課題や構想を実現するための実施計画(概念設計、実体設計、詳細設計)を具体的に、計画書、プログラム、設計図などで表現できる。

	学習・教育到達目標	具体的な達成目標
(B) デザイン能力	(B-2) 実行 基礎知識を活用し、着実に計画を継続して解析・実行し、得られた成果を論文にまとめる総合的なデザイン能力とチームワーク能力を身につける。	①知識・技術取得能力 既存の知識・技術を駆使して解決を試み、解決できない場合には、自主的に、新たに必要となる知識・技術の取得あるいは未知の知識・技術を整理・統合できる。
		②協調・管理統率能力(チームワーク能力) スタッフやユーザ等とのコミュニケーションを通じて、協調・管理統率できる。
		③実践能力 種々の制約のもと、課題や構想を実施計画に従って、自主的、継続的に着実に実行できる。
		④継続的改善能力 継続して点検を欠かさず、計画を尊重しつつ創造性を発揮し、スパイラルアップを目指すことができる。
		⑤報告書作成・プレゼンテーション能力 完成した作品や実体の分析(空間機能性など)を報告書にまとめ、プレゼンテーションができる。
		⑥評価能力 完成した作品や実体の分析(空間機能性など)を自己評価し、さらに他の作品等を正当に評価できる。
(C) コミュニケーション能力	(C-1) 日本語 日本語で記述、発表、討論する能力を身につける。	①的確な日本語で表現できる。
		②日本語で検討・議論ができる。
	(C-2) 外国語 国際的に通用するコミュニケーションの基礎能力を身につける。	①英語・ドイツ語による基礎的な表現ができる。 ②英語で基礎的な検討・議論ができる。 ③英語の基礎的な聴き取り、読解ができる。
(D) 専門知識・能力	(D-1) 理学 数学(微分積分学、微分方程式、確率と統計、数値解析、応用数学等)の基礎知識を理解し、それらを用いて応用問題を解決できる。(具体的な学習・教育目標およびその達成度の基準はシラバスに記載) ②自然科学 一般物理、一般化学、生命科学等の基礎知識を理解し、それらを用いて応用問題を解決できる。(具体的な学習・教育目標およびその達成度の基準はシラバスに記載)	①数学 微分積分学、微分方程式、確率と統計、数値解析、応用数学等の基礎知識を理解し、それらを用いて応用問題を解決できる。(具体的な学習・教育目標およびその達成度の基準はシラバスに記載) ②自然科学 一般物理、一般化学、生命科学等の基礎知識を理解し、それらを用いて応用問題を解決できる。(具体的な学習・教育目標およびその達成度の基準はシラバスに記載)
		(D-2) 基礎工学 設計・システム、情報・論理、材料・バイオ、力学、社会技術の基礎知識と能力を身につける。
	(D-3) 専門共通分野 環境システムデザイン工学の専門共通分野(環境、創生、エネルギー、計測・制御、安全等)の知識と能力を身につける。	環境システムデザイン工学の専門共通分野の基礎知識を理解することができ、それらを用いて応用問題を解決できる。(具体的な学習・教育目標およびその達成度の基準はシラバスに記載)
	(D-4) 専門分野 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。	最も得意とする専門分野の基礎知識を理解することができ、それらを用いて応用問題を解決できる。(具体的な学習・教育目標およびその達成度の基準はシラバスに記載)
	(D-5) 異分野 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合し、環境問題に配慮したシステムを開発する能力とチームワーク力を身につける。	①異なった技術分野を理解できる。 ②複数の分野にまたがった計画を立案しこれをチームワーク力で遂行できる。 ③人間と環境を意識した技術的なアイデアを提案できる。
(E) 情報技術	情報機器を使いこなし、専門分野のプログラムを構築する能力を身につける。	①情報機器を使いこなすことができる。
		②情報機器で企画・構築ができる。
		③専門分野で必要とされるプログラミングができる。
		④表現化して説明できる。

一般科目

人文 ▶ <http://www.gifu-nct.ac.jp/jinbun/>
 自然 ▶ <http://www.gifu-nct.ac.jp/sizen/>



■ 一般科目の紹介

21世紀を担う技術者は、各工学分野の高度な知識と実践的技術を身につけていなければなりません。また、人文科学・自然科学の二分野にまたがる豊かな教養と幅広い視野を有し、善意と良識とを兼ね備えた、世界の人々から信頼される人間であることが肝要です。

このような人材を育成するために、一般科目では、普通高校の内容と大学の教養課程との重複を避け、併せて専門教育の基礎に重点をおいた独自のカリキュラムを採用しています。さらに、学生が国際化・情報化時代に対処して行けるように、最新の教育機器を利用した分かりやすい授業を実施するとともに、人格の陶冶にも力を注いでいます。

■ 一般科目（人文）で養成する人材像

今の時代が求めるものは、ひとつには専門的な知識と技術に精通した高度な専門性であり、ひとつには国際事情と人類の歴史についての該博な知識、そして確固とした倫理観に基づく高い見識である。またそれを獲得し伝達するためにコミュニケーションしようとする意欲と能力である。技術、情報、知識を操るのは人間であり、人間的基盤の健全な育成のため教養的かつ実践的な教育に一般科目（人文）は取り組んでいる。

以上に基づき、一般科目（人文）では、以下に示す「養成すべき人材像」を掲げている。

養成すべき人材像

- 人類の歴史的な背景・文化を理解し、他者・他国の立場を尊重して社会問題を考えることができる広い視野と倫理観を持った人材
- 日本語で十分に受容・発信できるだけでなく、外国語でも異文化に偏見を持つことなく受容・発信でき、獲得した広い視野、高い見識、倫理観を実社会で活かすことができる人材

■ 一般科目（自然）で養成する人材像

人間に役立つ工学を活用し発展させるには、工学の基礎となる物理・化学分野の自然法則を理解し、科学的な考え方を養うことが大切である。数学は、自然法則を適切に表現するために必要不可欠な手段であるから、その手法や考え方を十分に学習しなければならない。現代社会で科学技術の成果を利用しながら人間らしい健康な生活を送るためには、保健の知識を修得する必要があり、また、体育の心身に与える効用を体験的に理解しなければならない。

以上に基づき、一般科目（自然）では、以下に示す「養成すべき人材像」を掲げている。

養成すべき人材像

- 数学・物理・化学の基礎的な知識をもち、専門分野にそれを応用する能力のある人材
- 心身の健康に関する知識を持ち、健康的な生活を送ることができる人材

■ 一般科目で養成する学力及び資質・能力等の具体的な学習・教育目標

- 人類の歴史的な背景・文化を理解し、他者・他国の立場を尊重して社会問題を捉える倫理観の基礎を身につける。
- 心身ともに健康な技術者たるために、健康管理能力および体力を身につけるとともに、芸術の鑑賞力、協調性、創造力、想像力などを培い、心のゆとりを育て、生活を豊かにする。
- 日本語で記述、発表、討論する能力の基礎を身につける。
- 英語によるコミュニケーションの基礎能力を身につけるとともに、その他の言語についても理解して国際的な視野を身につける。
- 数学・自然科学の基礎知識およびそれらを用いた問題解決能力を身につける。

以上の学習・教育目標は準学士課程の各専門学科に共通のものである。

■ 一般科目のカリキュラム（平成28年度以降入学生）

1年		2年		3年		4年		5年	
国語A	2	総合国語	2	総合国語	2	総合国語	1	英語A	2
国語B	2	倫理	2	政治・経済	2	法学	2	第二外国語 (中国語)	2
歴史	2	歴史	2	数学AI	2	体育	2		
地理	2	数学AI	2	数学AII	2	英語A	2		
数学AI	2	数学AII	2	体育	2	第二外国語 (ドイツ語)	2		
数学AII	2	数学B	2	英語A	2				
数学B	2	物理BI	2	英語C	1				
物理A	1	物理BII	2						
化学A	3	化学B	2						
保健	2	体育	2						
体育	2	英語A	2						
美術	1	英語B	1						
音楽	1	英語C	2						
英語A	2								
英語B	2								
英語C	2								



電子黒板を使った倫理の授業

■ 教員

職名	氏名	学位	主な担当科目
教授	久世 早苗		保健・体育
	岡田 章三	理学修士	数学
	清水 晃		英語
	◎(自然・学科長) 坂部 和義	博士(理学)	物理
	(※1) 上原 敏之	博士(工学)	化学
	◎(人文・学科長) 亀山 太一	教育学修士	英語
	宮口 典之	文学修士	国語
	(学生主事) 久保田圭司	教育学修士	政治・経済
	中島 泉	理学修士	数学
	山本 浩貴		保健・体育
准教授	(寮務主事) 麻草 淳		保健・体育
	(※2) 中島 泰貴	博士(文学)	国語
	岡崎 貴宣	博士(理学)	数学
	野々村咲子	文学修士	英語
	北川 真也	博士(理学)	数学
	菅原 崇	博士(文学)	英語
講師	空 健太	修士(教育学)	法学 歴史
	菅 菜穂美	博士(理学)	物理
助教	佐竹 直喜	修士(教育学)	英語
	八木真太郎	博士(理学)	数学
	福井 駿	博士(教育学)	地理 倫理

※1 男女共同参画推進室長 ※2 図書館長



Eラーニングによる英語の授業



数学の授業風景



体育の授業風景

機械工学科

<http://www.gifu-nct.ac.jp/mecha/index.html>



■ 機械工学科の紹介

機械工学科は材料力学、流体力学、熱力学等と材料学、機械工作法等を基礎にして所要の機能を持つ種々の機械や機器を設計し、製作していく科学技術を扱う学問で、ほとんど全ての工学や産業の基礎としても重要な役割を果たしています。

特に、最近急速に発達してきたエレクトロニクスとコンピュータによって産業構造は大きく変化してきました。そのため機械工学科は従来の基本領域に加え、これらメカトロニクスの分野をも含んだ新しい形態の工学が必要になってきました。

機械工学科では、この急速な技術の進展に対応するため、幅広い基礎学力を身につけさせると共に、各専門科目ごとの内容の充実を図っています。

さらにワークステーション、万能塑性加工試験機、材料試験機、ロボットなど年々新しい機器、装置を導入して工学実験や卒業研究などに利用しています。

このように本学科では座学と体験教育を通じて、創造性豊かな実践技術者としての素養を身につけさせるように努めています。

■ 機械工学科で養成する人材像及び学習・教育目標

機械工学は「ものづくり」技術の根幹を成す学際領域である。「ものづくり」は機械製品の立案計画段階である(1) 機械設計と、これに続いた製品を具現化する段階である(2) 機械製作の2段階により構成される。

機械設計は、機械技術者の叡智と経験とを集約・統合することによって、はじめて実現される創造的な営みの発露である。機械技術者をめざす学生は、機械設計技術の基盤である数学、物理、及び情報技術等を修得することが不可欠である。さらに、これらの科学技術を基礎として、機械設計技術に直結した「材料力学」、「流体力学」、「熱力学」、及び「機械力学」を中心とした力学関連教科目を修得しなければならない。

機械製作は、機械設計技術者により考案された製品のイメージを、実際の製品として具現化する崇高な創造的プロセスである。機械技術者は①経済性、②品質、③工期、あるいは④環境保全・安全についての所定の制約条件下で、最適な加工条件を見出し実現する重責を担っている。機械技術者をめざす学生は、生産機械操作についての実践的能力のみならず、生産技術に深い関わりのある「機械工作法」、「計測工学」、「制御工学」、及び「生産工学」等の教科目を修得しなければならない。

一方、「ものづくり」を効率的に遂行するために、機械技術者は、道具としてのIT技術を修得することが必要である。また、国内外の「ものづくりチーム」の一員として活躍するためには、「コミュニケーション能力」、及び「倫理観に基づく社交性」が求められ、機械技術者をめざす学生にはこれらの能力を滋養することが期待されている。

以上に基づき、機械工学科では、以下に示す「養成すべき人材像」及び「学習・教育目標」を掲げている。

養成すべき人材像

- 国際社会において機械技術者として活躍するための基礎学力を有し、社会情勢の急激な変化に柔軟に対処できる情報処理能力と情報解析能力を備えた人材

■ 学習・教育目標

(A) 倫理を身につける。

- (A-1) 人類の歴史的な背景・文化を理解し、他者・他国の立場を尊重して社会問題を捉える倫理観の基礎を身につける。
- (A-2) 機械技術が地球環境に及ぼす影響等に責任を自覚する機械技術者としての倫理観の基礎を身につける。
- (A-3) 心身ともに健康な技術者たるために、健康管理能力および体力を身につけるとともに、芸術の鑑賞力、協調性、創造力、想像力などを培い、心のゆとりを育て、生活を豊かにする。

(B) デザイン能力の基礎を身につける。

- (B-1) 機械技術上の問題点や新たな課題を理解し、豊かな発想で自発的に問題を解決するための計画を立てる能力の基礎を身につける。
- (B-2) 機械工学の基礎知識を活用し、着実に計画を継続して解析・実行し、得られた成果を論文にまとめる総合的なデザイン能力の基礎を身につける。

(C) コミュニケーション能力を身につける。

- (C-1) 日本語で記述、発表、討論する能力の基礎を身につける。
- (C-2) 英語、ドイツ語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。

(D) 機械工学とその基礎となる学際分野、及びその周辺の境界学際分野の知識・能力の基礎を身につける。

- (D-1) 数学・自然科学の基礎知識およびそれらを用いた問題解決能力を身につける。
- (D-2) 基礎工学(設計・システム、情報・論理、材料、力学)の基礎知識と能力を身につける。

- (D-3) 機械工学のうち、その周辺学際分野にも共通な分野(環境、創生、エネルギー、計測・制御、安全等)の知識と能力を身につける。
- (D-4) 機械設計技術者としての基礎知識を身につけ、この深度化と体系化を図るため次の4つの能力を修得する。
 - (1) 強度が保証され安全に利用することができる機械を設計するための材料の力学に関する能力
 - (2) 空気あるいは液体などの流体の力学的挙動を把握し、これを機械設計に適用する能力
 - (3) 機械の動力、あるいは利用効率に関わる物質の熱的な挙動を力学的に評価し、これを機械設計に適用する能力
 - (4) 機械の運動、あるいは振動についての力学的挙動を理解し、これを機械設計に適用する能力
- (D-5) 機械工学とは異なる技術分野にも興味を持ち、これらと機械工学の知識とを複合する能力の基礎を養う。

(E) 情報技術を身につける。

情報機器を使いこなし、情報処理システムのプランを構築する能力の基礎を身につける。

■ 機械工学科のカリキュラム

1年	2年	3年	4年	5年
〈必修科目〉 ものづくり入門 3 (小計) 3	〈必修科目〉 機械工作法I 1 機械工作法II 1 コンピュータリテラシー 1 機械設計製図I 2 機械工学実習I 3 (小計) 8	〈必修科目〉 応用物理I 2 工業力学 2 機構学 2 材料力学I 2 材料学I 1 計測工学 1 機械設計法I 1 情報処理I 1 情報処理II 1 機械設計製図II 2 機械工学実験I 2 機械工学実習II 3 (小計) 20	〈必修科目〉 応用数学I 2 応用数学II 1 応用物理II 1 機械力学I 1 材料力学II 1 流体力学I 2 熱力学I 2 伝熱工学I 1 材料学II 1 塑性加工学I 1 塑性加工学II 1 制御工学I 1 機械設計法II 1 数値計算法I 1 電気工学概論 1 機械工学実験II 2 創生工学実習 3 工業英語 1 機械工学基礎研究 2 (小計) 27	〈必修科目〉 応用物理III 1 機械力学III 1 材料力学III 1 流体力学II 1 流体力学III 1 熱力学II 1 エネルギー工学 1 材料学III 1 生産工学 1 制御工学II 1 電子回路 1 工学解析 2 技術者倫理 1 卒業研究 8 (小計) 22 〈選択科目〉 弾性力学 1 塑性力学 1 数値計算法II 1 伝熱工学II 1 流体機械 1 エネルギーと環境 1 システム工学 1 メカトロニクス 1 ロボット工学 1 (選択科目開設単位数) 9 (選択科目修得単位数) 6以上



機械工学実習Iの様子

■ 教員

職名	氏名	学位	主な担当科目
教授	加藤 浩三	博士(工学)	塑性加工学
	小栗 久和	工学修士	材料力学
	石丸 和博	博士(工学)	熱力学
	(※1) 片峯 英次	博士(工学)	機械設計法
	◎(学科長) 山田 実	博士(工学)	制御工学
准教授	宮藤 義孝	博士(工学)	機械工学実習
	(※2) 山本 高久	博士(工学)	伝熱工学
	中谷 淳	博士(工学)	流体力学
助教	本塚 智	博士(工学)	材料学
	高橋 憲吾	修士(工学)	機械設計製図

※1 テクノセンター長 ※2 国際交流室長



金属材料の疲労試験



工学解析の授業



塑性加工実験

電気情報工学科

http://www.gifu-nct.ac.jp



学科内全教室が無線LAN対応

電気情報工学科の紹介

電気情報工学科は、電気をエネルギーや信号として利用する電気電子工学の分野と、コンピュータや情報・通信に関係した情報工学の分野を学ぶことができる新しい学科です。高学年ではコース制を採用し、それぞれの分野のより専門的な能力を養成します。

情報通信革命の進む中、21世紀ますます発展が予想される電気・電子工学と情報工学について、低学年では幅広い基礎をじっくりと学びます。教室での授業に加えて、最先端の機器を取り入れた電気・電子工学関係の実験設備や、学科専用のUNIXネットワーク教室を用いて、十分な実験・実習を行います。また、各種コンテストや発表の機会を多く設けることによって、プレゼンテーション能力と評価・改善提案能力を育成します。

高学年では電気電子工学コースと情報工学コースに分かれて、それぞれ独立したカリキュラムで、より専門的な事項を学びます。学習に対してゆとりを考慮したカリキュラムとし、創成型のテーマを実験・実習に取り入れることにより、創造性あふれる実践的技術者を育成します。

電気情報工学科で養成する人材像及び学習・教育目標

電気情報工学科では、近年の急速な電気・電子・情報技術の進展や今後の各種技術革新にも対応でき、国際性や倫理観を有する技術者を養成するため、情報化社会の基盤をなす電気・電子・情報の各分野についての基礎的な技術と知識を身に付け、高度細分化した専門技術や知識の自立的な修得を可能とする教育を目指している。本学科ではこの目標を効率的に達成するため、学生の資質に応じた教育を可能とする、コース別カリキュラムを四年次より導入している。電気電子工学コースと情報工学コースに分かれた教育カリキュラムにより、専門的技術と知識の効率的な修得を可能とし、電気・電子・情報の各分野における基礎知識と技術をバランス良く身につけると共に、社会の要求に応えることのできる高度な専門技術と知識を修得した技術者の養成を目指している。

以上に基づき、電気情報工学科では本校JABEEプログラムと対応して以下に示す「養成すべき人材像」及び「学習・教育目標」を掲げている。

養成すべき人材像

- 電気・電子・情報の各分野における基礎知識と技術をバランス良く身につけると共に、社会の要求に応え高度な専門技術と知識を修得していただける能力を身につけた技術者

学習・教育目標

(A) 倫理を身につける。

- (A-1) 人類の歴史的な背景・文化を理解し、他者・他国の立場を尊重して社会問題を捉える倫理観の基礎を身につける。
- (A-2) 電気・電子・情報技術が地球環境に及ぼす影響等を自覚する技術者としての倫理観の基礎を身につける。
- (A-3) 心身ともに健康な技術者たるために、健康管理能力および体力を身につけるとともに、芸術の鑑賞力、協調性、創造力、想像力などを培い、心のゆとりを育て、生活を豊かにする。

(B) デザイン能力を身につける。

- (B-1) 電気・電子・情報に関する技術上の問題点や新たな課題を理解し、豊かな発想で問題を解決していくための計画を立てる能力を身につける。
- (B-2) 電気・電子・情報工学の基礎知識を活用して計画を実行し、得られた成果を解析して論文にまとめていく総合的なデザイン能力を身につける。

(C) コミュニケーション能力を身につける。

- (C-1) 日本語で記述、発表、討論する能力の基礎を身につける。
- (C-2) 英語、ドイツ語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。

(D) 電気・電子・情報工学とその基礎となる学際分野及びその周辺の境界学際分野の、知識・能力の基礎を身につける。

- (D-1) 数学・自然科学の基礎知識およびそれらを用いた問題解決能力を身につける。
- (D-2) 設計・システム・情報・論理・材料・力学等、工学技術の基礎知識とその応用能力を身につける。
- (D-3) 電気・電子・情報工学の周辺学際分野の共通分野（環境、エネルギー、計測・制御、創生、安全等）の基礎知識とその応用能力を身につける。
- (D-4) 電気電子コース・情報コースにて、両コースに共通する基礎知識をバランス良く身につけるとともに、社会の要求に応え高度な専門技術と知識を修得していただける能力を身につける。
 - (1) 電気・電子・情報工学の基礎となる主要な知識を身につけ、その応用能力を身につける。
 - (2) 電気電子コースでは、電気・電子工学分野の基礎知識を身につけ、応用的な専門技術や知識を自立的に修得していただける能力を身につける。
 - (3) 情報コースでは、電子・情報工学分野の基礎知識を身につけ、応用的な専門技術や知識を自立的に修得していただける能力を身につける。

(E) 情報技術を身につける。

情報機器を使いこなし、専門分野で必要とされるプログラミングなど、情報処理システムを用いた企画・構築・表現の基礎知識と能力を身につける。

電気情報工学科のカリキュラム

1年	3年	4年	5年	
〈必修科目〉	〈必修科目〉	〈必修科目〉	〈必修科目〉	〈選択科目〉
電気電子設計製図 (小計) 3	応用数学A 1 応用物理I 2 電気磁気学I 2 電気回路I 2 電子工学 1	2コース共通科目 応用数学B 2 応用数学C 1 応用数学D 1 応用物理I 2 電気磁気学I 1 電子工学 2 電気材料I 1 通信工学 2 計算機アーキテクチャ 2 数値計算 1 信号処理 1 電気情報工学実験 2 工学基礎研究 2 (小計) 20	2コース共通科目 技術者倫理 1 卒業研究 6 (小計) 7	2コース共通科目 人工知能 1 情報ネットワーク 1 ソフトウェア工学 1 コンパイラ 1 画像処理工学 1 オペレーティングシステム 1 パワーエレクトロニクス 1 エネルギー変換工学 1 電気材料II 1 自動制御 2 光・量子エレクトロニクス 1 プラズマ工学 1 電磁レトロニクス 1 電子計測 1 光工学 1 システム工学 1 応用物理II 1 (小計) 18
2年	電子物性 1 電子回路 2 電気機器 2 プログラミング 2 技術英語 1 電気情報工学実験 (小計) 8	情報工学コースのみ 情報工学実験 2 情報理論 1 データ構造とアルゴリズム 1 言語理論 1 情報数学 2 (小計) 7	情報工学コースのみ 情報工学実験 2 情報理論 1 データ構造とアルゴリズム 1 言語理論 1 情報数学 2 (小計) 7	電気電子工学コースのみ 電気電子工学実験 2 電気磁気学II 1 電気回路II 1 情報伝送工学 2 デジタル回路II 1 (選択科目開設単位数) 23 (選択科目修得単位数) 17以上
				電気電子工学コース選択科目 高電圧工学 1 発変電工学 1 送配電工学 1 電気法規 1 情報理論 1 データ構造とアルゴリズム 1 言語理論 1 情報数学 2 (選択科目開設単位数) 27 (選択科目修得単位数) 17以上



学生作品テスラコイル (数十万ボルトの発生が可能な発電装置)



東京大学総長賞はじめ多くの活躍をした武井氏 (電気OB・37期生)による学生向け講演会



大学院での飛び級期間を米国MITでの客員研究員として活躍した後藤氏(電気OB・39期生)による学生向け講演会

電気情報工学科では卒業生の活躍を現役学生に可視化していきます。

教員

電気情報工学科では外部資金獲得を含め、教育・研究環境の改善を学科全教員で進めています。

職名	氏名	学位	主な担当科目
教授	◎(学科長)(※1) 所 哲郎	工学博士	高電圧工学 電気回路I
	(教務主事) 熊崎 裕教	博士(工学)	電気磁気学I・II 技術者倫理
	安田 真	博士(工学)	情報数学 人工知能
	(※2) 出口 利憲	博士(工学)	データ構造とアルゴリズム 言語理論
	富田 睦雄	博士(工学)	電気機器 自動制御
准教授	羽瀨 仁恵	博士(工学)	電気磁気学I・II デジタル回路II
	山田 博文	博士(工学)	プログラミング 情報理論
講師	富田 勲	博士(理学)	応用数学B 応用物理I・II
	飯田 民夫	博士(工学)	電子回路 電気回路I・II
	田島 孝治	博士(工学)	計算機アーキテクチャ 情報ネットワーク
助教	白木 英二	博士(工学)	電気情報工学実験 光工学
	柴田 欣秀	博士(工学)	電気電子設計製図 電気情報工学実験
嘱託教授	稲葉 成基	工学博士	光・量子エレクトロニクス 電子工学
	山田 功	博士(工学)	情報伝送工学 信号処理

※1 教育AP推進室長 ※2 情報処理センター長

電子制御工学科

<http://www.gifu-nct.ac.jp/elcon/>



電子制御工学科の紹介

現代社会においては、機械的な単純作業だけでなく、判断を用いる知的作業の分野においても、人間の代わりとなって作動するシステムを開発することが求められています。人間は目や耳などの感覚器官を通して状況を把握し、頭脳で考え、手足を使って、様々な動作を行います。これを装置で行う場合にも、センシング（目・耳）、認識と判断（頭）、制御（手足）といった同様なプロセスが必要となります。こうしたプロセスを全てにわたって、人を介することなく、自律的に行うのが知能化したシステムです。知能化システムは、工場の生産設備をはじめ、自動車、航空機、電子機器、インテリジェントビル、通信システム、医療機器、バイオテクノロジーから家電製品に至るまであらゆる分野で実現されようとしています。本電子制御工学科では、このような知的動作をするシステムを開発するための基礎技術を総合的に取り扱います。本科では、電気・電子・機械系の基礎知識に加えて、計測・制御・情報・コンピュータ関連の専門科目やロボット工学、システム制御工学などの最先端の理論についても学びます。また、実験・実習も重視しており、電子制御工学実験やロボット制御実験・情報処理演習なども徹底して行っています。このように電子制御工学科では、幅広い基礎技術を身につけると同時に、電子制御・情報制御技術によるシステムの知能化を実現し、人間の知的動作を代行するような創造的なシステム開発を行える技術者の育成を目指しています。

電子制御工学科で養成する人材像及び学習・教育目標

近年における電子制御技術の進歩に代表される各種技術に柔軟に対応できる技術者の育成を目的とし、電子制御技術の高度化や専門細分化の進化に伴う時代の流れを適切に捉え、その基礎となる基礎技術の習得ならびに、その応用展開としての電子制御システムの運用に実践的に関わることができる学生を育てることを教育目標とする。そのため、電気・電子、情報・制御、機械関連技術を統一の見地から総合的に駆使して、将来において、より高度で環境に配慮した知的システムを創造的に構築し展開できる人材を育成することが、電子制御工学科の社会的役割である。

以上に基づき、電子制御工学科では、以下に示す「養成すべき人材像」及び「学習・教育目標」を掲げている。

養成すべき人材像

- 電気・電子、情報・制御、機械関連の基礎知識と考え方を身につけ、国際化する高度情報化社会の要求に応え、電子制御・情報制御技術を基礎として、創造的な技術開発・技術改良ができる能力を身につけた技術者

学習・教育目標

(A) 倫理を身につける。

- (A-1) 人類の歴史的な背景・文化を理解し、他者・他国の立場を尊重して社会問題を捉える倫理観の基礎を身につける。
- (A-2) 電子制御技術が地球環境に及ぼす影響等に責任を自覚する技術者としての倫理を身につける。
- (A-3) 心身ともに健康な技術者たるために、健康管理能力および体力を身につけるとともに、芸術の鑑賞力、協調性、創造力、想像力などを培い、心のゆとりを育て、生活を豊かにする。

(B) デザイン能力を身につける。

- (B-1) 電気・電子、情報・制御、機械に関係する技術上の問題点や新たな課題を理解し、豊かな発想で自発的に問題を解決するための計画を立てる能力を身につける。
- (B-2) 電気・電子、情報・制御、機械の基礎知識を活用し、着実に計画を継続して解析・実行し、得られた成果を論文にまとめる総合的なデザイン能力を身につける。

(C) コミュニケーション能力を身につける。

- (C-1) 日本語で記述、発表、討論する能力の基礎を身につける。
- (C-2) 英語、ドイツ語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。

(D) 電子制御工学とその基礎となる学際分野、及びその周辺の境界学際分野の知識・能力を身につける。

- (D-1) 数学・自然科学の基礎知識およびそれらを用いた問題解決能力を身につける。
- (D-2) 設計・システム・情報・論理・材料・力学等、工学技術の基礎知識と応用能力を身につける。
- (D-3) 電子制御工学の周辺学際分野にも共通な分野（環境、エネルギー、計測・制御、創生、安全等）の基礎知識と応用能力を身につける。
- (D-4) 電子制御工学の専門分野の基礎知識を身につけ、それを活用して電子制御システムを運用できる能力や、社会の要求に応じて専門知識と技術を修得していきける能力を養う。
 - (1) 電気・電子工学を基礎とした電子制御工学分野に関する基礎知識と考え方を身につける。
 - (2) 制御・情報、機械を基礎とした電子制御工学分野に関する基礎知識と考え方を身につける。

(E) 情報技術を身につける。

情報機器を使いこなし、専門分野で必要とされるプログラミングなど、情報処理システムを用いた企画・構築・表現化などを行うための基礎知識と能力を身につける。

電子制御工学科のカリキュラム

1年	2年	3年	4年	5年
〈必修科目〉	〈必修科目〉	〈必修科目〉	〈必修科目〉	〈必修科目〉
電子制御工学概論 1	情報処理I 2	応用数学 A 1	応用数学 B 2	電子工学I 1
電子制御工学実習I 2	デジタル回路 2	応用物理I 2	応用数学 C 1	システム制御I 1
(小計) 3	電子制御設計製図I 2	情報処理II 2	応用数学 D 1	電動カデバイスI 1
	電子制御工学実習II 2	電気磁気学I 2	応用物理I 2	電子デバイスI 1
	(小計) 8	電気回路I 2	情報処理III 2	電子計算機I 1
		電子回路 2	電気磁気学II 2	情報伝送工学 1
		機械運動学I 2	電気回路II 1	ロボット工学I 1
		材料の力学I 2	電気回路III 1	材料学 1
		電子制御設計製図II 1	電子制御回路 1	技術者倫理 1
		電子制御工学実験I 4	計測工学 2	環境エネルギー工学 1
		(小計) 20	制御工学 2	電子制御工学実験III 3
			機械運動学II 1	卒業研究 6
			機械運動学III 1	(小計) 19
			材料の力学II 1	〈選択科目〉
			電子制御工学実験II 3	応用物理II 1
			電子制御総合実験 2	電子工学II 1
			工学基礎研究 2	システム制御II 1
			(小計) 27	電動カデバイスII 1
				電子デバイスII 1
				電子計算機II 1
				ロボット工学II 1
				電子応用機器 1
				ロボット応用 1
				画像工学 1
				電子機器設計 1
				信頼性工学 1
				(選択科目開設単位数) 12
				(選択科目修得単位数) 9以上

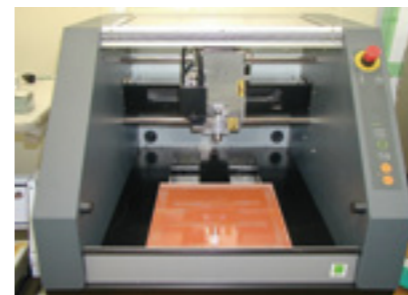


実験風景

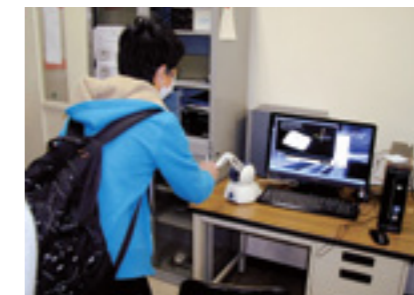
教員

職名	氏名	学位	主な担当科目	
教授	長南 功男	工学修士	電気回路 電子回路	
	藤田 一彦	博士(工学)	電気磁気学 電子制御回路	
	森口 博文	博士(理学)	応用数学	
	(専攻科長)	北川 秀夫	博士(工学)	情報処理 ロボット工学
准教授	◎(学科長)	福永 哲也	博士(工学)	計測工学 電子制御工学概論
		遠藤 登	博士(工学)	システム制御 情報処理
	(※)	小林 義光	博士(工学)	機械運動学 電子制御工学実験
講師	北川 輝彦	修士(工学)	電子制御工学実験 電子制御設計製図	
助教	栗山 嘉文	博士(工学)	電子制御工学実習 材料の力学	
	初山 克章	修士(工学)	電子デバイス 電子制御工学実験	
	黒山 喬允	博士(工学)	電子制御工学実験 制御工学	

※学生相談室長



3次元加工機



力覚フィードバック装置



ランサーロボット

環境都市工学科

http://www.gifu-nct.ac.jp/civil/



■ 環境都市工学科の紹介

近年、わが国は多くの災害にみまわれています。なかでも平成23年に発生した東北地方太平洋沖地震は観測史上最大のマグニチュードを記録するとともに、地震に伴って発生した津波もあいまって甚大な被害をもたらし、わが国がまだまだ自然災害に対して脆弱な面を持っていることを思い知らされました。寸断された道路や鉄道により人々の生活基盤は奪われ、一刻も早い復旧が望まれる中、環境都市工学科を卒業した技術者達が住民の期待に応えて寝食を忘れ道路や鉄道の復旧にあたっています。

環境都市工学科では、自然災害から国土を守る「防災」、快適で安全な生活や産業を支える「社会基盤整備」に関わる技術を創造・提案できる能力を身につけます。さらに、自然と共生・調和し環境負荷の低減を考慮した「循環型の都市づくり」についても取り組みます。

卒業後に就職する場合、大きく分けて、防災や社会基盤整備に関する計画立案をする職種（国家・地方公務員、エネルギー・運輸・情報関係の民間企業）、防災や社会基盤に関する施設を設計・施工・維持管理する職種（設計会社、建設会社）、のいずれかに就きます。いずれも、自分の技術が住民の安全で快適な生活に貢献していることを実感できる仕事です。公共心が強く、住民の役に立つことに喜びを感じられる人にとって、工学の中では最も適した分野といえましょう。

■ 環境都市工学科で養成する人材像及び学習・教育目標

「社会基盤」と呼ばれるモノ、それは例えば、車で走る、電気がつく、水を飲むといった当たり前の生活環境を支えているモノであり、通信・物流・輸送といった安全かつ円滑な社会活動を支えるためのモノであり、なにより自然災害から国土を守るためのモノである。これらはすべて我々にとって必要不可欠な存在であり、どのような世の中になっても決して無くなるものではない。そして、これらを実現する仕組みづくりが「社会基盤整備」なのである。

わが国の世界に冠たる社会基盤整備技術は、日本はもとより、人類の発展に大きく貢献しているが、今後はさらに環境容量の配慮が最重要課題となる。人類が持続的な発展をしていくためには、自然と共生した社会基盤の整備や地域の歴史や文化と調和のとれた創造的な都市づくりを実現できる技術者の養成が望まれている。

以上に基づき、環境都市工学科では、以下に示す「養成すべき人材像」及び「学習・教育目標」を掲げている。

養成すべき人材像

- 人類が自然災害から国土を守り快適で安全な生活を支えるための社会基盤の整備と、自然と共生・調和し環境負荷の低減を考慮した「循環型の都市づくり」の創造に関する基本的な知識・考え方を理解し、人類の持続的な発展を支える社会基盤整備を積極的に推進できる能力を身につけている技術者

■ 学習・教育目標

(A) 倫理を身につける。

- (A-1) 人類の歴史的な背景・文化を理解し、他者・他国の立場を尊重して社会問題を捉える倫理観の基礎を身につける。
- (A-2) 環境都市工学にたずさわる技術者にとっての倫理の必要性を認識する。
- (A-3) 心身ともに健康な技術者たるために、健康管理能力および体力を身につけるとともに、芸術の鑑賞力、協調性、創造力、想像力などを培い、心のゆとりを育て、生活を豊かにする。

(B) デザイン能力を身につける。

- (B-1) 環境都市工学に関係する技術上の問題点や新たな課題を理解し、自発的に問題を解決するための計画を立てる能力を身につける。
- (B-2) 環境都市工学の基礎知識を活用し、着実に計画を継続して解析・実行し、得られた成果を論文にまとめる基本的な能力を身につける。

(C) コミュニケーション能力を身につける。

- (C-1) 日本語で記述、発表、討論する能力の基礎を身につける。
- (C-2) 英語、ドイツ語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。

(D) 環境都市工学とその基礎となる学際分野、及びその周辺の境界学際分野の知識・能力を身につける。

- (D-1) 数学・自然科学の基礎知識およびそれらを用いた問題解決能力を身につける。
- (D-2) 設計・システム・情報・論理・材料・力学等、工学技術の基礎知識を身につける。
- (D-3) 環境システムデザイン工学の学問共通分野（環境、エネルギー、計測・制御、創生、安全等）の知識と能力を身につける。
- (D-4) 専門分野としての環境都市工学において以下の基本的な知識および考え方を身につける。

- (1) 人類が自然災害から国土を守り快適で安全な生活を支えるための社会基盤の整備に関する基本的な知識および考え方を身につける。
- (2) 自然と共生・調和し環境負荷の低減を考慮した「循環型の都市づくり」の創造に関する基本的な知識および考え方を身につける。
- (D-5) 各自が環境都市工学の主要4分野（構造系、水理系、土質系、計画・環境系）の内、もっとも得意とする分野とは異なる分野にも興味を持ち、これらと得意とする分野の知識とを複合する能力の基礎を養う。

(E) 情報技術を身につける。

情報機器を使いこなし、専門分野で必要とされるプログラミングなど、情報処理システムを用いた計画・構築・表現化の能力を身につける。

■ 環境都市工学科のカリキュラム

1年	2年	3年	4年	5年
〈必修科目〉	〈必修科目〉	〈必修科目〉	〈必修科目〉	〈必修科目〉
シビルエンジニアリング入門 2	測量学I 1	応用物理 2	応用数学 2	空間情報工学 1
コンピュータリテラシ 1	測量実習I 2	測量学II 1	数値計算法 2	総合実験 1.5
(小計) 3	基礎製図 2	測量実習II 2	測量学III 2	循環型社会形成論 1
	基礎材料学 1	基礎実験I 3	設計製図 2	建設マネジメント 1
	基礎力学 2	コンクリート工学I 2	基礎実験II 3	防災工学 1
	(小計) 8	構造力学I 2	コンクリート工学II 2	総合演習II 1.5
		水理学I 2	構造力学II 3	技術者倫理 1
		土質力学I 2	水理学II 3	卒業研究 8
		数理計画学I 2	土質力学II 3	(小計) 16
		環境工学I 2	数理計画学II 1	〈選択科目〉
		(小計) 20	環境工学II 2	構造解析学 1
			都市工学 1	鋼構造 1
			総合演習I 1	コンクリート工学III 1
			(小計) 27	耐震工学 1
				応用土質力学 1
				地盤工学 1
				水資源工学 1
				河川水理学 1
				河川水文学 1
				河川生態学 1
				生物学的排水処理工学 1
				地域都市計画 1
				交通工学 1
				エネルギー工学 1
				(選択科目開設単位数) 14
				(選択科目修得単位数) 12以上



測量実習

■ 教員

職名	氏名	学位	主な担当科目
教授	(専攻科主任) 岩瀬 裕之	博士(工学)	コンクリート工学 設計製図
	(研究主事) 和田 清	工学博士	河川生態学 環境工学
	◎(学科長) 吉村 優治	博士(工学)	土質力学 地盤工学
	鈴木 正人	工学博士	計画学 河川水文学
准教授	廣瀬 康之	工学修士	測量学 防災工学
	水野 和憲	博士(工学)	土質力学 基礎力学
	角野 晴彦	博士(工学)	環境工学 測量実習
	水野 剛規	博士(工学)	構造力学 設計製図
講師	坂本 淳	博士(工学)	都市工学 交通工学
助教	渡邊 尚彦	博士(工学)	応用数学 耐震工学
	菊 雅美	博士(工学)	水理学 測量学
嘱託教授	鈴木 孝男	工学修士	水理学



津波造波実験



高専祭専門展学生作品



環境実験

建築学科

<http://www.gifu-nct.ac.jp/archi/>



■ 建築学科の紹介

建築とは、「人間の生活や文化を容れる器である」と言われています。この人間を包む器は、「工・用・美」の三つの面が充実されていること、すなわち工学的な技術によって安全（工）かつ合理的（用）で、しかも芸術的な技術によって美しい（美）ことが大切です。

建築学科では、「工」にあたる数学や物理などを基礎とした構造力学・構造設計などの構造工学部門、「用」にあたる物理や化学などを基礎とした環境工学・建築設備などの環境・設備工学部門、「美」にあたる人文、社会科学や美術などを基礎とした造形、建築計画、都市計画などの意匠部門、さらに実際の建築工事に必要な建築生産、建築法規などの広い分野にわたる科目、及びこれらを総合した建築設計製図といった科目が開設されています。また最終学年において、学生一人一人が各教員の個人指導のもとで、それぞれ、卒業設計または卒業研究を行います。

■ 建築学科で養成する人材像及び学習・教育目標

建築学科では、人間が社会生活を営む空間を構築するために建築・都市空間の構成技法、環境調整及び構造安全性に関する技術と教養並びに、それらを総合化する能力を教授することにより、実践的技術者の育成と創造性の涵養を目標としている。

以上に基づき、建築学科では以下に示す「養成すべき人材像」及び「学習・教育目標」を掲げている。

養成すべき人材像

- 人間が社会生活を営む空間を構築するために建築・都市空間の構成技法、環境調整及び構造安全性に関する基礎的技術と教養を有し、それらを総合化できる技術者

■ 学習・教育目標

(A) 倫理を身につける

- (A-1) 人類の歴史的な背景・文化を理解し、他者・他国の立場を尊重して、社会問題を捉える倫理観の基礎を身につける。
- (A-2) 歴史的な背景・文化を理解し、建設技術に起因する社会問題や環境問題を捉え、人間として、また、技術者としての倫理観を身につける。
- (A-3) 心身ともに健康な技術者たるために、健康管理能力および体力を身につけるとともに、芸術の鑑賞力、協調性、創造力、想像力などを培い、心のゆとりを育て、生活を豊かにする。

(B) デザイン能力を身につける

- (B-1) 建築に関係する技術上の問題点や新たな課題を理解し、豊かな発想で自発的に問題を解決するための計画を立てる能力を身につける。
- (B-2) 建築学の基礎知識を活用し、分析して成果を論文や設計図面にまとめる総合的なデザイン能力を身につける。

(C) コミュニケーション能力を身につける

- (C-1) 日本語で記述、発表、討論する能力の基礎を身につける。
- (C-2) 英語、ドイツ語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。

(D) 専門知識・能力を身につける

- (D-1) 数学・自然科学の基礎知識およびそれらを用いた問題解決能力を身につける。
- (D-2) 設計・情報・材料・力学等、工学技術の基礎知識と応用能力を身につける。
- (D-3) 建築学の周辺学際分野にも共通な分野（環境、エネルギー、計測、安全等）の知識と応用能力を身につける。
- (D-4) 建築学の専門分野の基礎知識を身につけ、さらに、専門性とその体系化をはかるために、次の分野に必要とされる能力と技術を修得する。
 - (1) 建築・都市に関わる社会的・地域的な視点を養い、よりよい生活空間を機能的かつ芸術的観点から計画する能力と設計に必要な技術
 - (2) 建築室内および外部空間において、省エネルギーを考慮しつつ適正な環境を保持するための環境要素の予測、評価、調整の方法と設計に必要な技術
 - (3) 建築物の内外で安心して社会活動が営めるよう、構造上安全な建築空間ならびに構造形態を計画する能力と設計に必要な技術

(E) 情報技術を身につける

情報機器を使いこなし、表現化して説明できる能力を身につける。

■ 建築学科のカリキュラム

1年	2年	3年	4年	5年
〈必修科目〉	〈必修科目〉	〈必修科目〉	〈必修科目〉	〈必修科目〉
建築学通論 1	建築構法Ⅱ 1	応用物理Ⅰ 2	応用数学Ⅰ 1	RC構造Ⅱ 1
建築構法Ⅰ 1	空間デザイン基礎 1	デジタルデザインⅠ 1	応用数学Ⅱ 2	鉄骨構造Ⅱ 1
建築製図Ⅰ 2	インテリア基礎 1	情報処理Ⅰ 1	応用物理Ⅱ 1	環境デザインⅠ 1
(小計) 4	建築史Ⅰ 2	構造力学Ⅰ 2	デジタルデザインⅡ 1	建築生産 2
	建築製図Ⅱ 2	材料力学 1	情報処理Ⅱ 1	建築法規 2
	(小計) 7	木質構造 1	構造力学Ⅱ 2	測量学 1
		インテリアデザイン論 1	建築材料Ⅰ 1	測量学実習 1
		インテリア設計Ⅰ 1	RC構造Ⅰ 2	防災工学 1
		建築史Ⅱ 1	鉄骨構造Ⅰ 2	卒業研究 8
		建築計画Ⅰ 2	インテリア設計Ⅱ 2	(小計) 18
		環境工学Ⅰ 1	建築計画Ⅱ 2	〈選択科目〉
		建築設計製図Ⅰ 4	地域都市計画 1	応用数学Ⅲ 1
		建築工学実験Ⅰ 2	環境工学Ⅱ 2	土質基礎工学 1
		(小計) 20	建築設備Ⅰ 2	構造デザインⅠ 1
			建築設計製図Ⅱ 4	構造デザインⅡ 1
			建築工学実験Ⅱ 1	計画特論 1
			建築技術者倫理 (小計) 28	参加のデザイン 1
				建築史Ⅲ 1
				建築設計製図Ⅲ 2
				環境デザインⅡ 1
				建築設備Ⅱ 1
				建築材料Ⅱ 1
				複合構造 1
				環境社会学 1
				(選択科目開設単位数) 14
				(選択科目修得単位数) 9以上



インテリア設計制作風景

■ 教員

職名	氏名	学位	主な担当科目
教授	下村 波基	工学博士	鉄骨構造 建築技術者倫理
	◎(学科長) 犬飼 利嗣	博士(工学)	建築材料 RC構造
	鶴田 佳子	博士(工学)	地域都市計画 建築設計製図
	小川 信之	博士(工学)	応用物理 統計力学
准教授	柴田 良一	博士(工学)	構造力学 情報処理
	今田太郎	修士(工学)	建築計画 デジタルデザイン
	櫻木 耕史	博士(工学)	建築計画 建築設計製図
講師	青木 哲	博士(工学)	環境工学 建築設備
	清水 隆宏	博士(工学)	建築史 インテリア設計
	中谷 岳史	修士(学術)	環境工学 建築設備



鉄筋コンクリート造骨組の精密解析



建築構造実験



森林見学

専攻科

<http://www.gifu-nct.ac.jp/senkoka/>



■ 専攻科の紹介

専攻科は、実践的技術者を養成する本科5年間の課程を基礎として、さらに2年間の高度な技術教育を施し、幅広い技術的知識と深い学理的思考力の修得によって、独創的な研究開発や環境保全を視野に入れた企画設計に対応できる技術力を養うこと、ならびに深い教養を身につけ豊かな人間性を養うことを目標としています。

本校では、「先端融合開発専攻」の1専攻があります。本校の「環境システムデザイン工学教育プログラム」は、本科4、5年および専攻科1、2年のカリキュラムによって構成されます。

● 先端融合開発専攻

先端融合開発専攻は機械工学、電気情報工学、電子制御工学、環境都市工学、建築学を母体とする専攻であり、広くこれらの出身分野での学習を生かしつつ、その境界領域分野の諸問題にも対処できる様、カリキュラムが構成されています。出身分野と異なる分野の技術を融合した問題解決手段により、ものづくりを展開するための総合的なデザイン能力を基盤として、世界の持続的な発展に貢献する技術者を育成することを目指します。

■ 専攻科で養成する人材像及び学習・教育目標

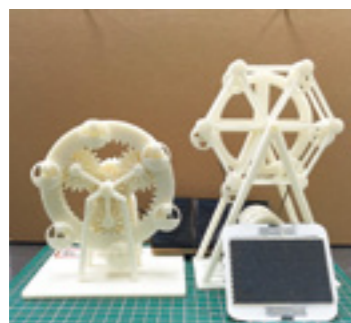
人類が地球上で持続的に発展していくには、生産に関わる各種資源物質の枯渇の防止と、地球上の生態系に影響を及ぼす諸物質の拡散防止などへの配慮が欠かせない。このためこれからの「ものづくり」においては、人間の労働や知的活動を支援し、より快適な社会生活を営むための人工環境を提供する一方で、地球環境の保全や循環型社会の構築に関する配慮が重要となる。専攻科では、社会生活上必要な各種「機能」とそれを実現する「もの（機械、電気・電子機器、建築物、社会基盤）」、「空間（生活、都市、自然）」、「エネルギー」、「知識・情報」およびそれらの「制御・管理」などから構成される「環境システム」を、地球環境の保全を考慮に入れて構想し、設計し、生産する、総合的なデザイン能力を育成することを目的としている。

以上に基づき、専攻科では、以下に示す「養成すべき人材像」及び「学習・教育目標」を掲げている。

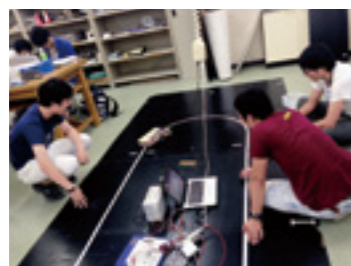
養成すべき人材像

● 先端融合開発専攻

専門分野をさらに深めることに取り組むとともに、これと異なる分野の技術システムを理解して、機械工学、電気電子工学、情報工学、土木工学、建築学などを融合した問題解決手段により、ものづくりを展開するための総合的なデザイン能力を基盤として、世界の持続的な発展に貢献する技術者



3Dプリンタを使った実習



特別実験



全国高専デザインコンペティション
(課題の木製タワーを振動台に設置)

■ 学習・教育目標

(A) 倫理を身につける。

- (A-1) 地球的規模で社会問題や環境問題を捉える倫理観を身につける。
- (A-2) 科学技術が地球環境に及ぼす影響等に責任を自覚する技術者としての倫理を身につける。

(B) デザイン能力を身につける。

- (B-1) 実務上の問題点や新たな課題を理解し、豊かな発想で自発的に問題を解決するための計画を立てる能力を身につける。
- (B-2) 基礎知識を活用し、着実に計画を継続して解析・実行し、得られた成果を論文にまとめる総合的なデザイン能力とチームワーク能力を身につける。

(C) コミュニケーション能力を身につける。

- (C-1) 日本語で記述、発表、討論する能力を身につける。
- (C-2) 国際的に通用するコミュニケーションの基礎能力を身につける。

(D) 専門知識・能力を身につける。

- (D-1) 数学・自然科学の高度な知識およびそれらを用いた問題解決能力を身につける。
- (D-2) 基礎工学（設計・システム、情報・論理、材料・バイオ、力学、社会技術）の高度な知識と能力を身につける。
- (D-3) 環境システムデザイン工学の専門共通分野（環境、創生、エネルギー、計測・制御、安全等）の高度な知識と能力を身につける。
- (D-4) 最も得意とする専門分野のより高度な知識と能力を身につける。
- (D-5) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合し、環境問題に配慮したシステムを開発する能力とチームワーク能力を身につける。

(E) 情報技術を身につける。

情報機器を使いこなし、専門分野のプログラムを構築する能力を身につける。

■ 専攻科のカリキュラム

先端融合開発専攻教育課程

1年		
一般科目	専門基盤科目	専門展開科目
〈必修科目〉	〈必修科目〉	〈必修科目〉
英語特講1 2	生命科学 2	特別実験 4
英語特講2 2	情報機器工学 2	特別実習 3
(必修科目開設単位数計) 4	応用物理学 2	特別研究1 6
〈選択科目〉	(必修科目開設単位数計) 6	(必修科目開設単位数計) 13
数学アラカルト 2	〈選択科目〉	〈選択科目〉
(選択科目開設単位数計) 2	国際連携実習1 1	医療福祉工学特論 2
	計算力学 2	航空宇宙工学特論 2
	環境生態工学 2	リノベーションデザイン論 2
	量子力学 2	循環型社会特論 2
	応用数学特論 2	環境材料学 2
	科学技術リテラシー教育実習 2	拡散現象論 2
	(選択科目開設単位数計) 11	回路網学 2
		デジタルシステム基礎 2
		デジタルシステム応用 2
		建設計画学 2
		地盤工学特論 2
		構造解析学特論 2
		環境調整工学 2
		(選択科目開設単位数計) 26

2年		
一般科目	専門基盤科目	専門展開科目
〈必修科目〉	〈必修科目〉	〈必修科目〉
社会倫理学特論 2	物質化学 2	特別研究2 8
(必修科目開設単位数計) 2	創造工学実習 2	(必修科目開設単位数計) 8
〈選択科目〉	(必修科目開設単位数計) 4	〈選択科目〉
文学 2	〈選択科目〉	画像情報処理 2
英語演習1 1	国際連携実習2 1	メカトロニクス特論 2
英語演習2 1	ヒューマンインターフェースデザイン 2	空気力学特論 2
(選択科目開設単位数計) 4	統計力学 2	材料分析工学 2
	情報工学 2	新エネルギー特論 2
	実験アラカルト 2	維持管理工学 2
	(選択科目開設単位数計) 9	環境計画学 2
		弾塑性力学 2
		連続体力学 2
		電気機器特論 2
		デジタル制御工学 2
		水管理工学 2
		建設振動学特論 2
		都市形成論 2
		(選択科目開設単位数計) 28

学校行事



体育大会



寮祭



ブック
ハンティング



寮祭



入学式



球技大会



高専祭



研修旅行



ロボコン



卒業式



後期中間試験
東海北陸地区高専英語スピーチコンテスト
ロボコン全国大会

全国高専デザインコンペティション

読書感想文等
各種コンクール
受賞者表彰

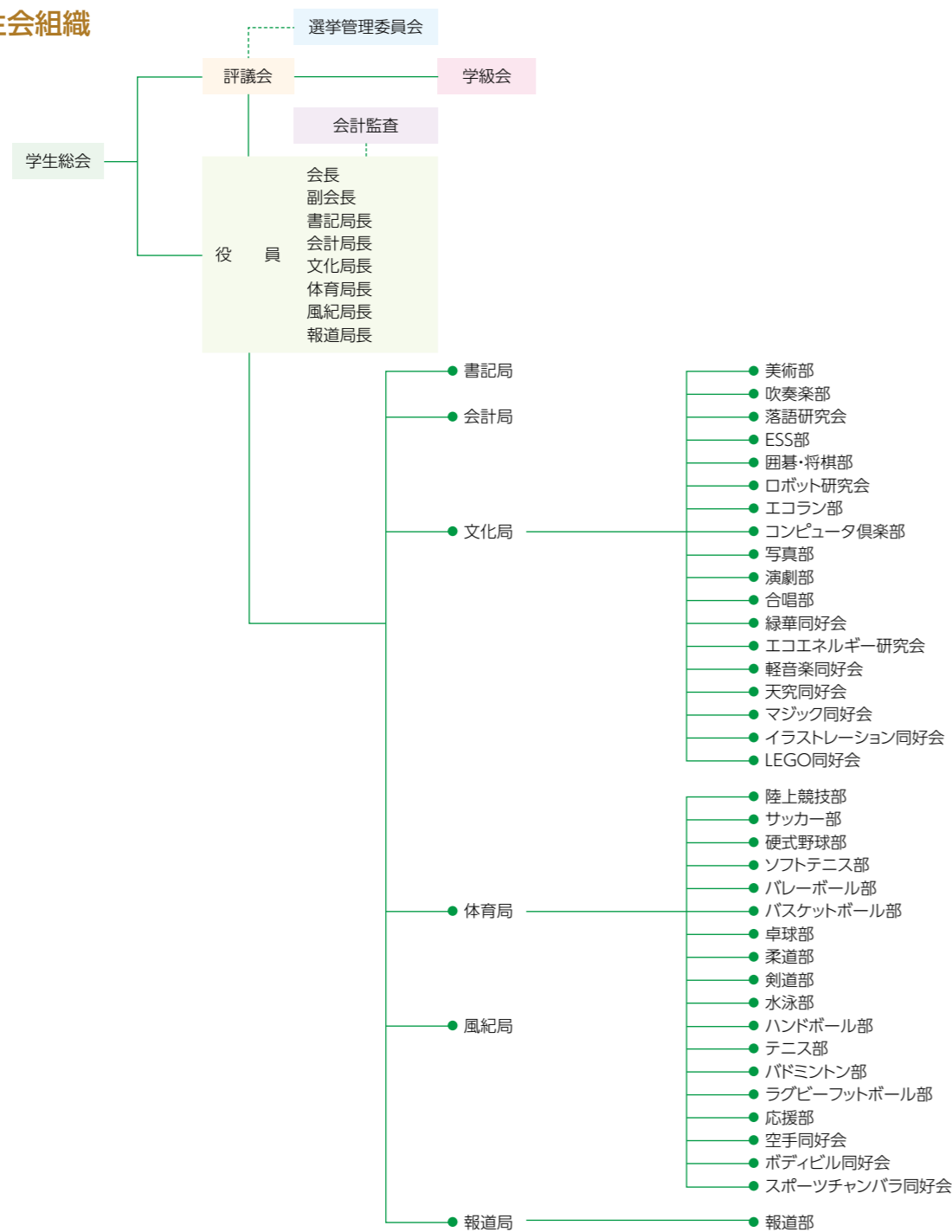


読書感想文等
各種コンクール
受賞者表彰

学生会は、学校の指導のもとに学生の自発的な活動を通じて、その人間形成を助長し、本校の教育目的を達成するため、次のことを目標として活動しています。

- ① 学生生活を楽しく、豊かで規律正しいものにし、よい校風をつくる態度を養う。
- ② 健全な趣味や豊かな教養を養い、個性の伸長を図る。
- ③ 心身の健康を助長し、余暇を活用する態度を養う。
- ④ 学校生活における集団の活動に積極的に参加し、自主性を育てるとともに集団生活において協力し、民主的に行動する態度を養う。
- ⑤ 学校生活における自発的能力を養うとともに、公民としての資質を向上させる。

学生会組織



専門展

岐阜高専の高専祭には、毎年4年生が『専門展』を開催します。『専門展』とは、各学科の特色となる作品を展示するものですが、中には体験型の作品があったりしてとても楽しい催しです。

2015年の『専門展』では、機械工学科が「機械アート展」、電気情報工学科が「近未来」、電子制御工学科が「人機一体」、環境都市工学科が「MIRAI ~きっとできるよね~」、建築学科が「最新の建築」の作品を展示しました。高専祭での展示ですので、一般のお客様も多数見学に来られます。そこで、ただ作品を展示するだけでなくプレゼンテーションも行い、一般のお客様にも分かり易く、親切に説明し、時には質問に答えることもあります。工学の知識がなくてもとても楽しい作品がご覧になれます。



機械工学科展示



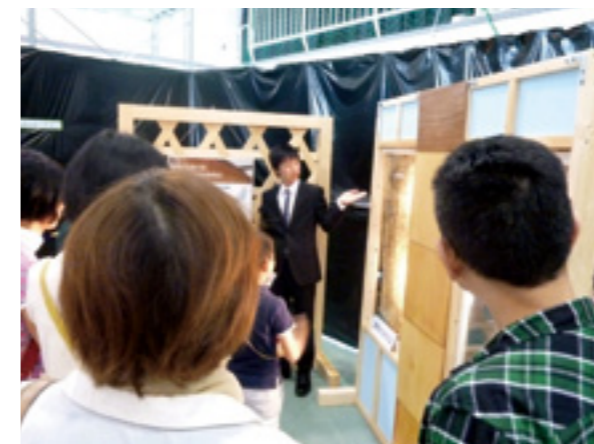
電気情報工学科展示



電子制御工学科展示



環境都市工学科展示



建築学科展示

■ 外国人留学生

本校では、平成3（1991）年から文部省（現文部科学省）を通して、国費・私費留学生およびマレーシア政府派遣留学生を受入れています。これまでに受入れた留学生は、平成27（2015）年度までに計70名です。現在、在籍している留学生は8名、その国籍は、マレーシア、モンゴル、カンボジアです。



東海地区高専留学生交流会（乗鞍）

国別受入留学生の内訳（平成3年度～平成28年度）

学科	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	環境都市工学科	建築学科	国別合計
マレーシア	15	4	16	4	2	41
ラオス	0	6	0	0	0	6
ヴェトナム	0	3	0	0	1	4
モンゴル	1	0	1	1	3	6
インドネシア	0	2	1	0	0	3
スリランカ	0	1	1	1	0	3
その他※	1	2	3	0	6	12
学科別合計	17	18	22	6	12	75

※その他は受入が2名以下の国（イラン、フィリピン、タイ、フィジー、ブラジル、ケニア、パングラディッシュ、カンボジア）

■ 包括交流協定の締結校（現在）

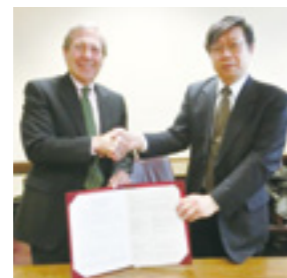
本校は、学生の海外インターンシップ（短期留学派遣）や教員の学術交流等の“国際化”推進のために、平成23（2011）年度より、海外の大学との包括的な交流協定締結に着手しました。初めに、平成23年11月にインドネシアのバンドン工科大学と協定を結び、その後右表の大学と協定を結び、平成28年4月現在で、包括交流協定締結校は8大学となっております。

包括交流協定の内訳（平成23年度以降）

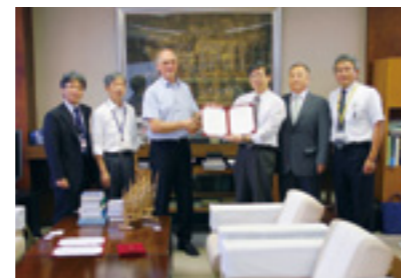
相手国	大学名	締結年月日
インドネシア共和国	バンドン工科大学	2011/11/3
マレーシア連邦	マレーシア工科大学	2012/7/30
ドイツ連邦共和国	ハノーバー大学	2012/9/24
アメリカ合衆国	アイオワ大学	2013/4/12 2016/2/17更新
ウズベキスタン共和国	トリノ工科大学 タシケント校	2014/6/25
//	タシケント工科大学	2015/9/9
//	タシケント自動車・ 道路建設大学	2016/1/26
フランス共和国	リールA技術短期大学	2016/2/2



バンドン工科大学（インドネシア）
Institut Teknologi Bandung



アイオワ大学（米国）
University of Iowa



ハノーバー大学（ドイツ）
University of Hannover



マレーシア工科大学（マレーシア連邦）
Universiti Teknologi Malaysia



トリノ工科大学タシケント校（ウズベキスタン共和国）
TTPU, Turin Polytechnic University in Tashkent

■ 海外インターンシップ・短期留学（派遣・受入）

平成15（2003）年から、本校地域連携協力会の会員企業である㈱TYK（本社多治見市）牛込進会長のご厚意で、同社の現地法人TYK America, Inc.（米国ピッツバーグ）で、また平成17年以降はTYK Ltd.（英国ダーラム）で1～2名の専攻科生を3週間のインターンシップ生として受け入れて頂きました。平成27年度までの派遣累積人数は24名です。

また、平成24年度には、包括交流協定を締結した海外の大学への短期留学がスタートしました。

平成27年度には5大学へ13名の学生が短期留学をし、大学の教員の指導の下、研究・実習を行いました。

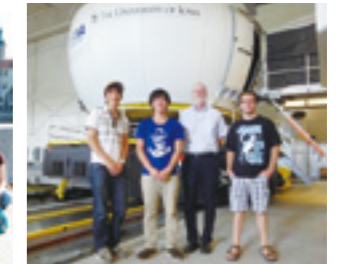
さらに、平成26年度からは JASSO「短期研修・研究」プログラムの一環として、協定締結校からの短期留学生を6～9月にかけて受け入れて、本格的な双方向の交流が始まりました。平成27年度には、海外の5大学から16名の留学生を受け入れ、研究室での実習や本校学生との交流を行いました。

海外インターンシップ派遣・受入の内訳（平成15年度以降）

協定大学・企業	年度	H15 ～25	H26	H27	H28
TYK Ltd.	派遣	20	2	2	2
	受入	0	3	3	3
バンドン工科大学	派遣	6	1	3	3
	受入	0	3	3	3
マレーシア工科大学	派遣	3	2	2	3
	受入	3	4	5	3
ハノーバー大学	派遣	2	0	2	2
	受入	0	3	3	3
アイオワ大学	派遣	2	1	2	2
	受入	0	2	3	3
トリノ工科大学 タシケント校	派遣	0	0	2	2
	受入	0	0	4	3
タシケント工科大学	派遣	0	0	0	0
	受入	0	0	0	3



ハノーバー大学



アイオワ大学



バンドン工科大学の海外インターンシップ（現地トヨタ工場見学、現地小学校への環境教育活動など）

■ 国際学術交流（二国間交流事業・共同セミナー開催）

平成24（2012）年10月、バンドン工科大学土木・環境工学部の副学部長2名が来校し、研究内容について意見交換しました。バンドン工科大学、岐阜高専双方の研究者による共同セミナー開催により、発展するインドネシアの都市・地域について、環境の持続可能性と自然災害に対する強靭性を両立させる新たな「都市インフラの整備方法」についての知見を深めることで合意しました。

平成25年11月21日に岐阜高専とバンドン工科大学FCEEの第1回ジョイントセミナー（Environmental Sustainability and Disaster Prevention）をバンドン工科大学で実施し、150名を超える参加者（岐阜高専、豊田高専および沼津高専の教員8名を含む）を得ました。

第2回セミナーは、平成27年3月22～24日の3日間、インドネシアのバリ島デンパサールにおいて開催されました。セミナーでは、日本側から、岐阜、豊田、沼津、福井高専、岐阜大学の14名、インドネシア側から7名の合計21名の参加者を得ました。

第3回セミナーは平成27年11月25日にバンドン工科大学で実施し、日本側から岐阜高専（6名）と大阪ガス（1名）が口頭発表しました。



第2回ジョイントセミナー（ESDP2015）
インドネシア・バリ、2015年3月22-24日

本校は、地域貢献活動にも力を注いでいます。その活動拠点がテクノセンターです。本センターには、地域企業・金融機関・地方公共団体などの外部連携を深める技術相談や共同研究などを推進する技術開発部門と、地域社会のニーズを意識した本校学生の実践的教育を取り扱う技術教育部門があります。その設置目的は、本校の教育・研究の発展とともに地域社会における産業技術の振興及び発展に一層貢献することです。また本校の教育・研究に協力することを通して地域の産業並びに文化の振興を図り、地域社会の発展に寄与することを目的として岐阜高専地域連携協力が設置され、人材育成セミナーの支援や協力企業説明会、見学会などを実施しています。



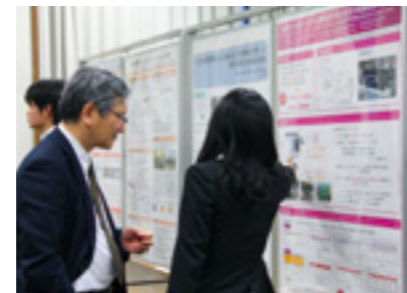
岐阜高専地域連携協力の取組み

関連ウェブサイト

事業名	ウェブサイト
地域連携協会	http://www.gifu-nct.ac.jp/techno/chikirenkei/
産学官連携アドバイザー	http://www.gifu-nct.ac.jp/techno/H28-adviser280401.pdf
科学技術リテラシー教育推進室	http://www.gifu-nct.ac.jp/techno/literacy/
公開講座	http://www.gifu-nct.ac.jp/about/extension_lecture/
産官学連携・研究シーズ集	http://www.gifu-nct.ac.jp/techno/seeds/



岐阜高専地域連携協会総会



テクノシンポジウム



中核人材育成塾

活動スケジュール

事業名	実施日
平成28年度中核人材育成塾	【基礎コース】平成28年4月21日(木)、5月12日(木)、5月26日(木)、6月9日(木)、6月23日(木)、7月7日(木) 【アドバンスコース】平成28年8月4日(木)、8月18日(木)、9月1日(木)、9月15日(木)、9月29日(木)、10月13日(木)
平成28年度知財講演会	平成28年秋開催
地域連携協会総会 第25回産官学交流懇談会 テクノシンポジウム2016	平成28年12月2日(金)

活動内容

事業名	内容
リテラシー等の活動・報告会・イベント行事	ぎふサイエンスフェスティバル(岐阜市文化センター)
地域連携協会会員と岐阜高専との研究プロジェクト	4件
ネットワーク大学コンソーシアム岐阜	科目名 〔前期〕デジタルシステム基礎 〔後期〕数学アラカルト 実験アラカルト デジタルシステム応用

活動内容

■ 科学技術(ものづくり)リテラシー教育実習

諸外国と比べて日本は一般市民の科学技術の役割や原理・法則を理解する能力は低いとされています。これは児童の理科・科学離れにより理科・科学に対し苦手意識をもったまま大人になってしまうことが原因の一つでもあるようです。したがって科学技術リテラシー向上には、児童も含めた一般市民に対して科学技術に関心を持ってもらう活動が必要となります。しかしながら一般市民に分かりやすく科学技術を説明するためには、まず説明する者が科学技術リテラシーを身に付けていないといけません。そこで本校では、工学的知識の習得だけでなく、学んだ科学技術を一般市民に分かりやすく説明する実習を通して、学生の科学技術リテラシーの醸成を行っています。この活動では、小中学生または一般市民に対して科学技術に関連した工作教室や実験体験を企画し、実際に学外で実施(発表)します。学外で発表するテーマは科学技術の持つ社会性を一般市民に伝えることができるものとしています。また、学外の発表までに工作に必要なキット、実演のための実験装置、専用のアプリなど、学外の発表のために必要な独自の教材を作ります。

実習テーマの実例として、探査ロボット、ロケット、GPS、放射線、地震防災、地域づくりなど私たちの生活に関わりのある科学技術を扱っています。これにより学生自身が科学技術の持つ社会性を学び、それを学外で説明することによって一般市民の科学技術リテラシーが向上していくことを目指しています。

■ 公開講座一覧

平成28年度岐阜高専公開講座開設一覧

番号	講座名	担当学科	期間	受講対象	受講料有無
1	きのくにロボットコンテスト 中学生部門	機械工学科	①7月31日(日) ②10月16日(日)	中学生	無
2	きのくにロボットコンテスト 小学生部門	機械工学科	①7月31日(日) ②10月16日(日)	小学生	無
3	はじめての七宝焼き	技術室	8月3日(水)	社会人・中学生	無
4	弦のないギターを作ろう	電気情報工学科	8月7日(日)	中学生 (小学生5・6年生対応可)	受講料は無料 但し、材料費 1,000円/人が必要
5	すまいづくり入門	建築学科	8月18日(木)	中学生・保護者・中学校教諭	無
6	LEDを使ったミニイルミネーションを作ろう	技術室	9月4日(日)	中学生以上 (小学5・6年生対応可)	無
7	3D-CGソフトと3Dプリンタで ミニチュア家具を作ろう	技術室	9月4日(日)	中学生以上 (小学5・6年生対応可)	無
8	電子回路の組み立てとロボットの製作	電子制御工学科	10月15日(土)	中学生	受講料は無料 但し、ロボット部材費 2,200円/人が必要
9	環境都市工学入門 ～折り紙で学ぶ構造と力～	環境都市工学科	10月29日(土)	中学生以上 (定員に余裕がある場合、小学生も可)	無

■ 出前授業

本校では、将来の社会の担い手となる中学生に対し、専門的内容に対して早期に興味や関心をもっていただくことを目的とした「出前授業」を積極的に実施しています。これは、自然科学、人文科学、工学(機械、電気情報、電子制御、環境都市および建築)を専門とする豊富な講師陣が中学校に出向いて専門的な内容をわかりやすく教授するものであり、日常では体験することのできない授業を中学生に提供しています。平成27年度には5テーマ7件の授業を行っています。

関連ウェブサイト：<http://www.gifu-nct.ac.jp/admission/delivery/>

平成27年度に実施した「出前授業」一覧

レゴブロックでロボットを作ろう
紙で作る構造物のかたち
ひらめきパズル教室
磁石につかないアルミでできた1円玉は、なぜ磁石についていくの?? -リニアモーターカーの原理-
地球温暖化対策(地産地消型マイクロリサイクル)

図書館

図書館は、教育及び研究に必要な資料を利用者に供することを目的としており、専門書を中心に約9万冊の蔵書があります。館内は明るく開放的な雰囲気が保たれており、開架図書は利用者が活用しやすいように、資格検定、就職進路、特許ものづくりなど、コーナー毎に配置されています。また、ブックハンティングや文献検索講習会をはじめ、企画展など四季折々にイベントを開催しています。

平日の開館時間は午前8時30分から午後8時まで、土曜日は午前9時から午後4時までです。平成25年度より、自習スペースを増やすとともに、試験期間中の土曜日開館時間延長を始めました。

(1) 開館時間

月曜日～金曜日
午前8時30分～午後8時
(雄志寮が閉寮期間中は午後5時まで)
土曜日
午前9時～午後4時
(館長が必要と認めた試験期間中の土曜日は午後7時まで)

(2) 休館日

日曜日・国民の祝日
年末年始の休日(12月29日～翌年の1月3日)
雄志寮が閉寮期間中の土曜日
※臨時休館はその都度掲示

詳しい開館日 開館時間は
図書館ホームページでご確認ください
<http://www.gifu-nct.ac.jp/tosho/>



ブックハンティング(2、4年生対象)

蔵書数 (2016.4.1現在)

分類	和書	洋書	合計
総記	2,215	206	2,421
哲学	2,752	192	2,944
歴史	5,742	122	5,864
社会科学	6,674	194	6,868
自然科学	14,150	3,785	17,935
工学	26,156	3,806	29,962
産業	1,102	28	1,130
芸術	3,660	148	3,808
言語	3,223	1,922	5,145
文学	12,295	2,413	14,708
計	77,969	12,816	90,785

雑誌数

和書	洋書	合計
72	3	75

視聴覚資料数

DVD等	242
------	-----



図書館オリエンテーション(1年生対象)



学科推薦図書

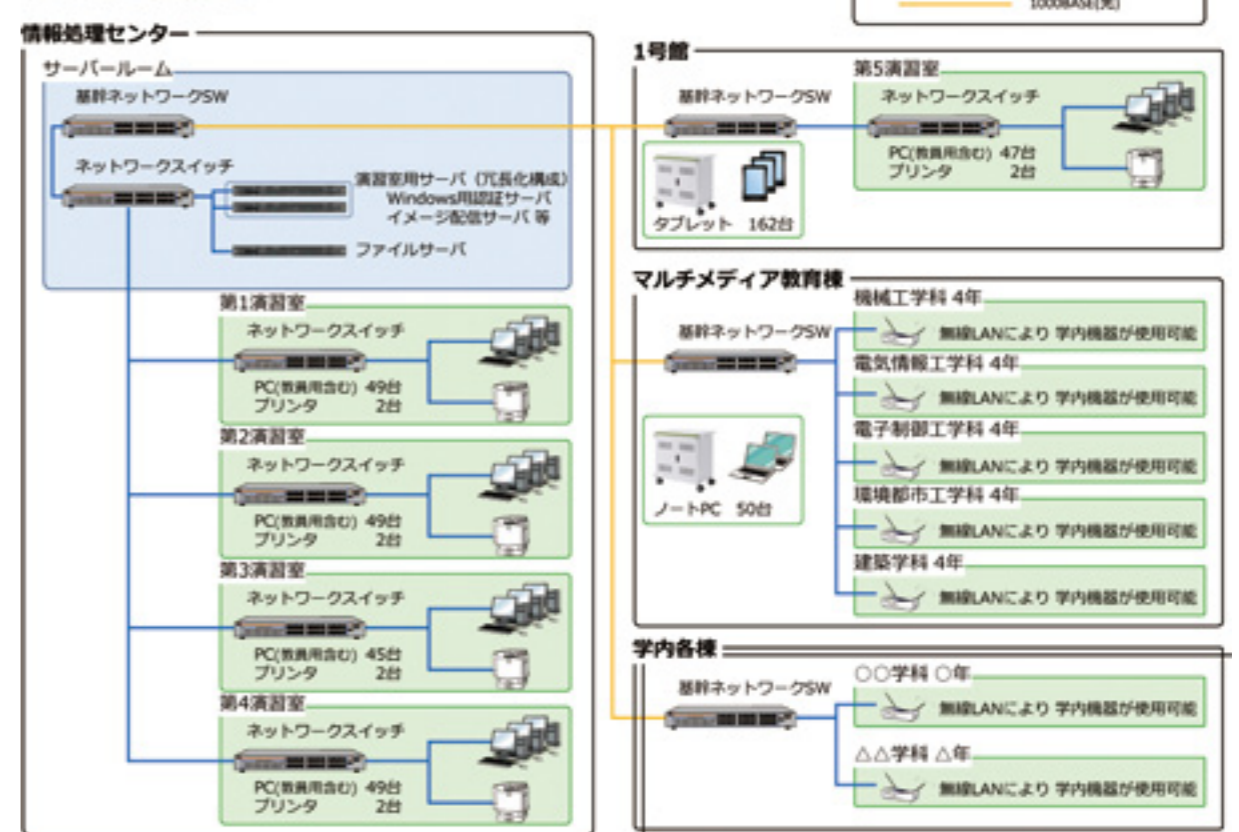
情報処理センター

情報処理センターは、情報教育、eラーニング、CAI(計算機支援による教育)、CAD(計算機支援による設計)教育及び卒業研究、学術研究などに利用できる各学科共通の施設です。

校内LANはギガビットイーサネットを整備され、外部へはSINET5及び岐阜情報スーパーハイウェイにより接続されます。

平成28年4月に教育用システムを更新し、ネットワークブートシステムにより、情報処理センター内及び1号館3階のあわせて5つの演習室に239台のパソコンを運用しております。これらのパソコンは、インターネットにも接続されていますので、学生は電子メールでいろいろな人とコミュニケーションしたり、世界のホームページを見ることや文献の検索をしたり、LMS(教育支援システム)にアクセスして自習したりすることもできます。

システム構成図



演習室での講義の様子



第5演習室

学 寮

本校には構内に学生寮があります。収容人員は331名です。学生寮は、「雄志寮」と称し、校舎から歩いて数分のところにあります。毎年、60名程度の新入生が入寮を許可されています。雄志寮は、男子用に3つの寮棟（A寮・BC寮及びD寮）と女子用に2つの寮棟（第1女子寮及び第2女子寮）の併せて5つの寮棟から構成されており、その居室には机・椅子・ロッカー・ベッドなどが備えつけてあります。このうち、B寮と第2女子寮の一部は留学生用に用いられています。

また、学生寮には寮生のほとんどすべてが一緒に食事をとることのできる大きな食堂も付属しています。寮生会による自主的な活動も盛んです。教員が毎晩寮内に泊まり、見回りや点呼の確認をし、規律ある生活ができるよう配慮されています。

寄宿料は月額700円（ただしA寮個室・C・D寮は800円）ですが、そのほか、食費（月額約34,000円）、光熱費・共通経費等（年額55,000円）、エアコンリース料等、電気使用料（年額27,600円）が必要です。

構成及び収容人員

寮棟名	居室種類	室数	収容人員
A 寮	2人室 1人室	45	90
B・C寮(留学生含む)	2人室 1人室	75	105
D 寮	1人室	84	84
第1女子寮	2人室	20	40
第2女子寮	2人室	6	12
計		230	331

寮生数

(平成28年4月現在)

学年	学年					計
	1年	2年	3年	4年	5年	
機 械 工 学 科	(1) 9	(1) 11	① 17	7	9	(2)① 53
電 気 情 報 工 学 科	(1) 12	(1) 10	7	(3) 11	5	(5) 45
電 子 制 御 工 学 科	(2) 17	(1) 12	① 16	12	(2)① 11	(5)② 68
環 境 都 市 工 学 科	(3) 11	(1) 5	(3)② 14	(1) 6	3	(8)② 39
建 築 学 科	(7) 14	(3) 9	(4)① 14	(2)① 8	(2)① 7	(18)③ 52
計	(14) 63	(7) 47	(7)⑤ 68	(6)① 44	(4)② 35	(38)⑧ 257
電 子 シ ス テ ム 工 学 専 攻	-	1				1
建 設 工 学 専 攻	-	2				2
先 端 融 合 開 発 専 攻	7	-				7
計	7	3				10

注 () は女子学生、○は留学生でもとに内数



学寮



寮居室 (A寮)

テクノセンター

テクノセンターは学内全学科の共同利用施設であり、地域連携活動とともに、生産技術の教育や学術研究、クラブ活動などのために、工作実習や加工設備の提供、装置の製作などを行っています。例えば、卒業研究やロボットコンテストのための製作活動が行われます。また、実習教育を受けていない学生のためのセンター利用講習会や、学外の方々（中学生や一般社会人）のための公開講座も行っていきます。

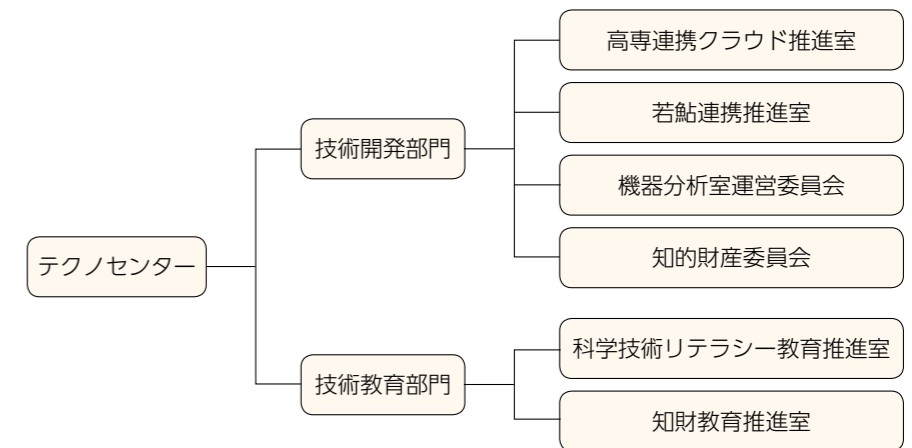
テクノセンターには教育用の基本的な工作機械に加え、コンピュータを搭載した最新鋭の多機能工作機械が多数設置されています。その中の代表的なものを表1に示します。

なお、機械工学科第4学年では設計から製造に至る全プロセスを体験する総合実習を行っています。

ホームページ：http://www.gifu-nct.ac.jp/techno/

表1 代表的な設備

設備名	台数
旋盤	12
フライス盤	9
シャーリングマシン	1
電気炉	2
CNC旋盤	2
CNCフライス盤	1
マシニングセンタ	2
放電加工機	2
平面研削盤	1
産業用ロボット	2
アーク溶接機	11
ガス溶接装置	2
FA教育実習システム	1



テクノセンター組織図



マシニングセンター



放電加工機



FA教育実習システム

・機器分析室



走査型電子顕微鏡
(日立ハイテック、S-3400)



X線回折装置
(リガク、SmartLab)



フーリエ変換赤外分光装置

・科学技術リテラシー教育推進室の活動



ぎふサイエンスフェスティバル



ひらめきパズル

・外部資金獲得のための講演会



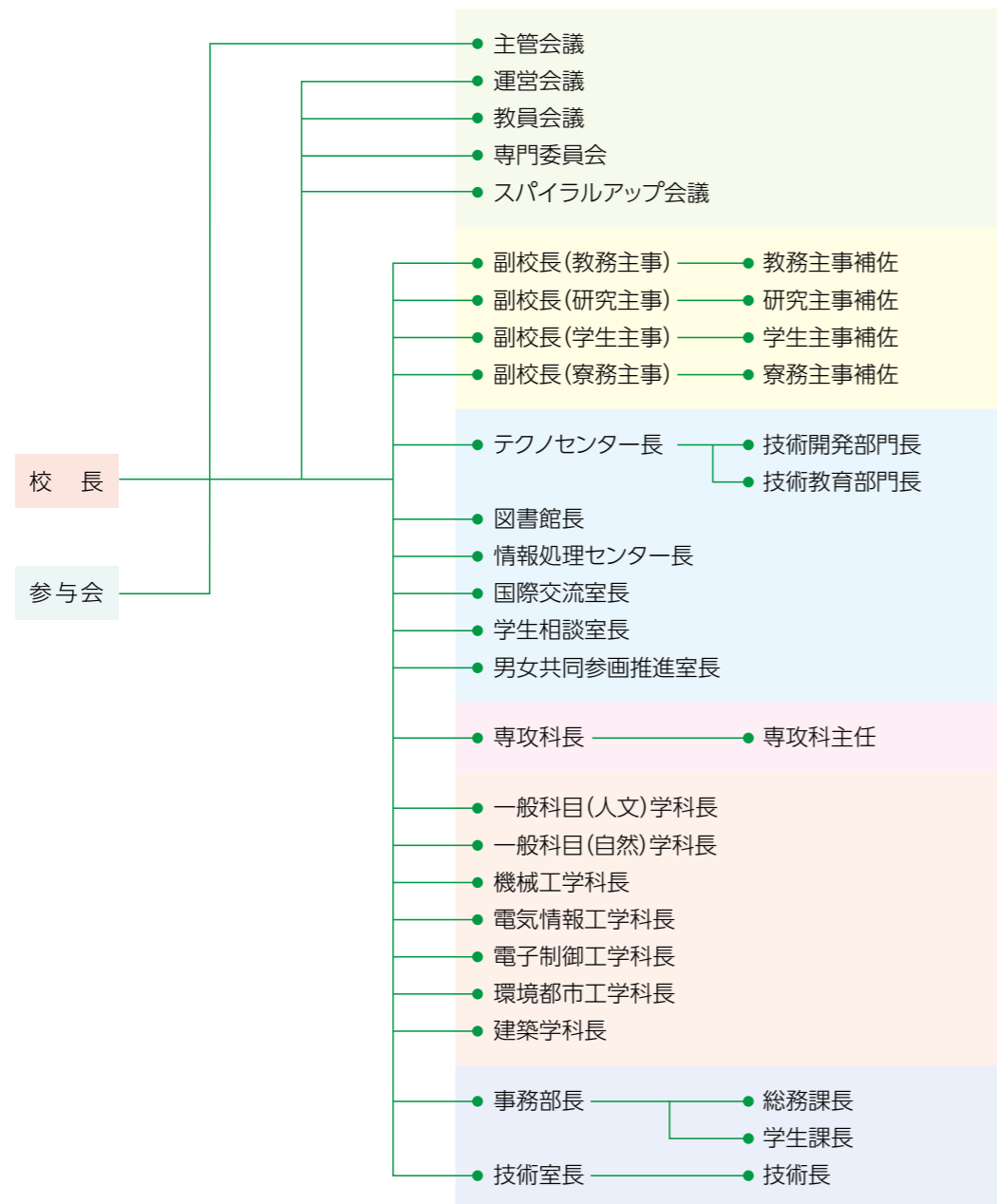
組 織

■ 職員の現員

平成28年4月1日現在

区 分	現 員
教育職員	
校 長	1
教 授	35
准 教 授	26
講 師	6
助 教	8
助 手	0
事務系職員	
合 計	116

■ 機構図



■ 役職員

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校 長	伊藤 義人	学 生 相 談 室 長	小林 義光
副 校 長 (教 務 主 事)	熊崎 裕教	男 女 共 同 参 画 推 進 室 長	上原 敏之
副 校 長 (研 究 主 事)	和田 清	専 攻 科 長	北川 秀夫
副 校 長 (学 生 主 事)	久保田圭司	専 攻 科 主 任	岩瀬 裕之
副 校 長 (寮 務 主 事)	麻草 淳	一 般 科 目 (人 文) 学 科 長	亀山 太一
テ ク ノ セ ン タ ー 長 (技 術 室 長)	片峯 英次	一 般 科 目 (自 然) 学 科 長	坂部 和義
技 術 開 発 部 門 長	片峯 英次	機 械 工 学 科 長	山田 実
技 術 教 育 部 門 長	森口 博文	電 気 情 報 工 学 科 長	所 哲郎
図 書 館 長	中島 泰貴	電 子 制 御 工 学 科 長	福永 哲也
情 報 処 理 セ ン タ ー 長	出口 利憲	環 境 都 市 工 学 科 長	吉村 優治
国 際 交 流 室 長	山本 高久	建 築 学 科 長	犬飼 利嗣

■ 事務部役職員

職 名	氏 名	職 名	氏 名
事 務 部 長	澤田 利夫	学 生 課 課 長 補 佐 (教 務 ・ 図 書 担 当)	渡邊 博子
総 務 課 長	蒲 美登子	学 生 課 課 長 補 佐 (学 生 担 当)	阿良 誠
学 生 課 長	山口 敏也	技 術 長	加藤 真二
総 務 課 課 長 補 佐 (財 務 担 当)	松浦 克行		

■ 学校医等

職 名	氏 名	職 名	氏 名
学 校 医	堀部 廉	学 校 薬 剤 師	森 敏美
学 校 医	横山 仁美	カ ウ ン セ ラ ー	山本 浩代
学 校 医	天野 雄平	カ ウ ン セ ラ ー	松下 智子
学 校 歯 科 医	竹内 幹生	カ ウ ン セ ラ ー	鈴木 孝男
		カ ウ ン セ ラ ー	山田 功

学 生

■ 入学定員・学生数

平成28年5月1日現在

学 科	入学定員	1年	2年	3年	4年	5年	計
機 械 工 学 科	40	42 (4)	43 (2) ●	48 (7) ①	38 (2)	43	214 (8) ①●
電 気 情 報 工 学 科	40	43 (4)	43 (7) ●	44 (3) ●	47 (7)	36 (5)	213 (26) ●
電 子 制 御 工 学 科	40	45 (5) ●	41 (2)	44 (2) ①	41 (2) ●	41 (3) ①	212 (14) ②●
環 境 都 市 工 学 科	40	41 (16)	44 (7)	46 (12) ②	46 (17)	34 (5)	211 (57) ②
建 築 学 科	40	42 (27) ●	40 (21)	42 (14) ①	45 (15) ①	41 (13) ①	210 (90) ③●
合 計	200	213 (56) ②	211 (39) ②	224 (31) ⑤●	217 (43) ①●	195 (26) ②	1060 (195) ⑧●
電 子 シ ス テ ム 工 学 専 攻			17				17
建 設 工 学 専 攻			3				3
先 端 融 合 開 発 専 攻	20	31 (3)					31 (3)
合 計	20	31 (3)	20				51 (3)

注()内は女子学生、○は留学生、●は休学者でともに内数

■ 外国人留学生

平成28年5月1日現在

学 科	学年	マレーシア	モンゴル	カンボジア	計
機 械 工 学 科	3年	1			1
	4年				
	5年				
電 気 情 報 工 学 科	3年				
	4年				
	5年				
電 子 制 御 工 学 科	3年		1		1
	4年				
	5年	1(1)			1(1)
環 境 都 市 工 学 科	3年	2			2
	4年				
	5年				
建 築 学 科	3年			1	1
	4年			1	1
	5年		1(1)		1(1)
合 計		4(1)	2(1)	2	8(2)

注()内は女子学生、内数

■ 奨学生(日本学生支援機構)

平成27年度(2015)

学 科	1年	2年	3年	4年	5年	計
機 械 工 学 科	2(1)			1	5(1)	8(2)
電 気 情 報 工 学 科			1(1)	1	3(1)	5(2)
電 子 制 御 工 学 科	2	2	1	5	4	14
環 境 都 市 工 学 科			3(2)	1	4(1)	8(3)
建 築 学 科	3(3)	1	1(1)	5(1)		10(5)
合 計	7(4)	3	6(4)	8	21(4)	45(12)
電 子 シ ス テ ム 工 学 専 攻	1					1
建 設 工 学 専 攻						
合 計	1					1

注()内は女子学生、内数

学 生

■ 出身県別学生数

平成28年5月1日現在

学 科	学年	岐阜	愛知	滋賀	その他	計
機 械 工 学 科	1年	35(4)	6	1		42(4)
	2年	34(1)	5	3	1(1)	43(2)
	3年	40	6	1	1	48
	4年	35(2)	3			38(2)
	5年	32	8	3		43
電 気 情 報 工 学 科	1年	36(3)	6(1)	1		43(4)
	2年	40(6)	2(1)	1		43(7)
	3年	41(3)	2	1		44(3)
	4年	45(6)	1	1(1)		47(7)
	5年	31(5)	3	2		36(5)
電 子 制 御 工 学 科	1年	36(5)	8	1		45(5)
	2年	29(2)	11	1		41(2)
	3年	33(2)	9		2	44(2)
	4年	39(2)	2			41(2)
	5年	32(2)	7		2(1)	41(3)
環 境 都 市 工 学 科	1年	35(14)	4	1(1)	1(1)	41(16)
	2年	39(7)	4	1		44(7)
	3年	40(12)	4		2	46(12)
	4年	45(16)	1(1)			46(17)
	5年	32(5)	2			34(5)
建 築 学 科	1年	33(20)	5(3)	1(1)	3(3)	42(27)
	2年	30(15)	7(4)		3(2)	40(21)
	3年	34(13)	5		3(1)	42(14)
	4年	41(14)	3(1)		1	45(15)
	5年	33(12)	6		2(1)	41(13)
合 計		900(171)	120(11)	19(3)	21(10)	1060(195)
比 率 (%)		84.9	11.3	1.8	2.0	100.0

注()内は女子学生、内数

■ 専攻科出身学校別学生数

平成28年5月1日現在

学 科	学年	岐阜高専	豊田高専	鶴岡高専	計
先 端 融 合 開 発 専 攻	1年	30(3)		1	31(3)
電 子 シ ス テ ム 工 学 専 攻	2年	16	1		17
建 設 工 学 専 攻	2年	3			3
合 計		49(3)	1	1	51(3)

注()内は女子学生、内数

■ 入学志願者数及び倍率

平成28年5月1日現在

学 科	定員	平成25年度 2013		平成26年度 2014		平成27年度 2015		平成28年度 2016	
		志願者数	倍率	志願者数	倍率	志願者数	倍率	志願者数	倍率
機 械 工 学 科	40	60(4)	1.5	55(1)	1.4	61(3)	1.5	70(4)	1.8
電 気 情 報 工 学 科	40	89(7)	2.2	74(6)	1.9	64(9)	1.6	62(7)	1.6
電 子 制 御 工 学 科	40	68(2)	1.7	89(3)	2.2	77(3)	1.9	58(6)	1.5
環 境 都 市 工 学 科	40	66(18)	1.7	64(18)	1.6	45(7)	1.1	75(21)	1.9
建 築 学 科	40	63(19)	1.6	74(27)	1.9	66(25)	1.7	81(40)	2.0
合 計	200	346(50)	1.7	356(55)	1.8	313(47)	1.6	346(78)	1.7

注()内は女子学生、内数

■ 編入学志願者数及び入学者数

平成28年5月1日現在

学 科	平成25年度 2013		平成26年度 2014		平成27年度 2015		平成28年度 2016	
	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数
機 械 工 学 科								
電 気 情 報 工 学 科			6	1				
電 子 制 御 工 学 科	1				1	1	2	
環 境 都 市 工 学 科								
建 築 学 科	4				5(2)	1(1)		
合 計	5		6	1	6(2)	2(1)	2	

注()内は女子学生、内数

■ 専攻科志願者数及び入学者数

平成28年5月1日現在

学 科	平成25年度 2013		平成26年度 2014		平成27年度 2015		平成28年度 2016	
	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数
電 子 シ ス テ ム 工 学 専 攻	58(2)	22	37(1)	19(1)	43	13		
建 設 工 学 専 攻	30(1)	19	30(4)	17(3)	12	2		
先 端 融 合 開 発 専 攻							42(5)	31(3)
合 計	88(3)	41	67(5)	36(4)	55	15	42(5)	31(3)

注()内は女子学生、内数

卒業生の進路

年度	学科	卒業生数	就職者数	進学者数	その他
平成24年度 (2012)	機械工学科	40(1)	25	14(1)	1
	電気情報工学科	39(2)	18	19(2)	2
	電子制御工学科	37	14	20	3
	環境都市工学科	44(5)	29(5)	15	
	建築学科	43(11)	24(9)	18(2)	1
	計	203(19)	110(14)	86(5)	7
平成25年度 (2013)	機械工学科	38(1)	22(1)	16	
	電気情報工学科	34(6)	19(5)	13(1)	2
	電子制御工学科	47(3)	28(3)	18	1
	環境都市工学科	40(15)	31(13)	8(2)	1
	建築学科	38(10)	18(7)	20(3)	
	計	197(35)	118(29)	75(6)	4
平成26年度 (2014)	機械工学科	39(1)	24	15(1)	
	電気情報工学科	41(2)	24(1)	15	2(1)
	電子制御工学科	42(3)	18(3)	24	
	環境都市工学科	32(6)	25(6)	7	
	建築学科	27(6)	22(6)	5	
	計	181(18)	113(16)	66(1)	2(1)
平成27年度 (2015)	機械工学科	37(3)	20(1)	16(1)	1(1)
	電気情報工学科	39(2)	12(1)	27(1)	
	電子制御工学科	34	15	19	
	環境都市工学科	40(7)	31(7)	9	
	建築学科	46(19)	30(14)	15(5)	1
	計	196(31)	108(23)	86(7)	2(1)

注()内は女子学生、内数

大学編入学及び高等専門学校専攻科入学状況

大学名	編入学年度	平成25年度 (2013)	平成26年度 (2014)	平成27年度 (2015)	平成28年度 (2016)
北海道大学		1			
室蘭工業大学			1		
東北大学		2	1		
筑波大学		1		3	1
埼玉大学				1	
千葉大学		3	5	2	1
東京大学			1		1
東京工業大学			2		1
東京農工大学			1	1	1
横浜国立大学		1		1	1
新潟大学		1			1
長岡技術科学大学		2		5	2
富山大学					1
金沢大学		2			
福井大学					2
信州大学			1		3
岐阜大学		1	6	12	14
静岡大学					1
名古屋大学		1	1	2	1
名古屋工業大学		5	3	4	2
豊橋技術科学大学		14	8(2)	12	14
三重大学		2	3	2	2
京都大学		1			
京都工芸繊維大学		1		2	2
大阪大学		3(1)	4	2	2
神戸大学		1	1	1	1
奈良女子大学		1	1		
岡山大学			1		1
広島大学		1			
山口大学				1	
九州大学				1	
九州工業大学			1(1)		
鹿児島大学			1		
首都大学東京					1
中部大学		1(1)			
大阪芸術大学		1			
岐阜高専(専攻科)		41	36	14	30
福井高専(専攻科)		1			
計		88(2)	78(3)	66	86

注()内は過年度卒業生、内数

卒業生の進路

大学院入学状況

大学院名	入学年度	平成25年度 (2013)	平成26年度 (2014)	平成27年度 (2015)	平成28年度 (2016)
東北大学大学院					1
東京工業大学大学院				1	
筑波大学大学院		1		2	2
横浜国立大学大学院				2	
長岡技術科学大学大学院			2		
名古屋大学大学院		1	1	2	1
名古屋工業大学大学院		1			
豊橋技術科学大学大学院				2	
三重大学大学院			2	1	
京都工芸繊維大学大学院			1		
大阪大学大学院				1	
北陸先端科学技術大学院大学		1			
奈良先端科学技術大学院大学		2			1
広島大学大学院				1	
情報科学芸術大学院大学			1		
計		6	7	12	5

注()内は過年度卒業生、内数

就職

年度	学科	就職者数	求人数	求人倍率	就職地		就職先		
					県内	県外	一般会社	公務員	公団・公社
平成25年度 (2013)	機械工学科	22(1)	442	20.1	5	17(1)	21(1)	1	
	電気情報工学科	19(5)	519	27.3	2(1)	17(4)	19(5)		
	電子制御工学科	28(3)	469	16.8	6	22(3)	27(3)	1	
	環境都市工学科	31(13)	163	5.3	5(2)	26(11)	17(5)	14(8)	
	建築学科	18(7)	188	10.4	4(2)	14(5)	18(7)		
	計	118(29)	1781	15.1	22(5)	96(24)	102(21)	16(8)	
平成26年度 (2014)	機械工学科	24	561	23.4	1	23	24		
	電気情報工学科	24(1)	548	22.8	2	22(1)	24(1)		
	電子制御工学科	18(3)	509	28.3	1(1)	17(2)	18(3)		
	環境都市工学科	25(6)	226	9.0	2	23(6)	14(4)	11(2)	
	建築学科	22(6)	240	10.9	4(1)	18(5)	22(6)		
	計	113(16)	2084	18.4	10(2)	103(14)	102(14)	11(2)	
平成27年度 (2015)	機械工学科	20(1)	529	26.5	4	16(1)	20(1)		
	電気情報工学科	12(1)	496	41.3		12(1)	12(1)		
	電子制御工学科	15	518	34.5	1	14	15		
	環境都市工学科	31(7)	250	8.1	7(2)	24(5)	20(3)	11(4)	
	建築学科	30(14)	234	7.8	5(2)	25(12)	30(14)		
	計	108(23)	2027	18.8	17(4)	91(19)	97(19)	11(4)	

注()内は女子学生、内数

専攻科

年度	専攻	修了者数	就職者数	進学者数	その他	求人数	求人倍率	就職地		就職先		
								県内	県外	一般会社	公務員	公団・公社
平成25年度 (2013)	電子システム工学専攻	17(2)	15(2)	2		291	19.4	6(1)	9(1)	15(2)		
	建設工学専攻	20(7)	15(7)	5		120	8.0	5(3)	10(4)	8(4)	7(3)	
	計	37(9)	30(9)	7		411	13.7	11(4)		23(6)	7(3)	
平成26年度 (2014)	電子システム工学専攻	22	17	5		358	21.1	5	12	17		
	建設工学専攻	15(1)	8(1)	7		164	20.5	1	7(1)	4(1)	4	
	計	37(1)	25(1)	12		522	20.9	6	19(1)	21(1)	4	
平成27年度 (2015)	電子システム工学専攻	14(1)	9(1)	5		429	47.7	1	8(1)	8(1)	1	
	建設工学専攻	18(3)	18(3)			218	12.1	6(1)	12(2)	14(3)	4	
	計	32(4)	27(4)	5		647	24.0	7(1)	20(3)	22(4)	5	

注()内は女子学生、内数

財 政

■ 運営費交付金等収支状況

(単位:千円)

収 入		支 出	
運 営 費 交 付 金	197,556	276,129	教 育 研 究 経 費
授 業 料 収 入	253,599	15,509	教 育 研 究 支 援 経 費
入 学 金 収 入	20,583	13,589	一 般 管 理 費
検 定 料 収 入	6,390	182,403	共 通 (教 育 研 究 ・ 支 援 ・ 一 般 管 理)
雑 収 入	9,502		
計	487,630	487,630	計

■ 補助金等採択状況

(単位:千円)

区 分	年 度	平成24年度(2012)	平成25年度(2013)	平成26年度(2014)	平成27年度(2015)
施 設 整 備 費 補 助 金		595,522	121,415	-	330,181
(独)国立大学財務・経営センター施設費交付事業費		36,372	13,965	26,460	50,738
地域産学官連携科学技術振興事業費補助金		9,899	-	-	-
設 備 整 備 費 補 助 金		131,459	-	-	-
原子力人材育成等推進補助金		185	254	26	53
平成22年度ものづくり分野の人材育成・確保事業		-	-	-	-
大 学 改 革 推 進 等 補 助 金		-	-	27,846	23,305
計		773,437	135,634	54,332	404,277

■ 科学研究費補助金受入状況 (平成23年度から、「科学研究費助成事業」)

(単位:千円)

区 分	年 度	平成24年度(2012)		平成25年度(2013)		平成26年度(2014)		平成27年度(2015)	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
基 盤 研 究 (B)		0	0	0	0	0	0	0	0
基 盤 研 究 (C)		14	16,500 4,950	16	15,100 4,530	16	16,600 4,980	16	15,700 4,710
挑 戦 的 研 究		1	500 150	0	0	1	2,400 720	1	500 150
若 手 研 究 (A)		0	0	0	0	0	0	2	2,600 780
若 手 研 究 (B)		7	4,600 1,380	4	5,000 1,500	4	4,200 1,260	4	3,300 990
奨 励 研 究		2	1,000	0	0	1	200	2	900
研 究 活 動 ス タ ー ト 支 援		1	1,300 390	1	1,300 390	0	0	0	0
計		25	23,900 6,870	21	21,400 6,420	22	23,400 6,960	25	23,000 6,630

上段は直接経費、下段は間接経費

■ 外部資金受入状況

(単位:千円)

区 分	年 度	平成24年度(2012)		平成25年度(2013)		平成26年度(2014)		平成27年度(2015)	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
産 研 学 連 携 等 費	受 託 研 究	8	4,763	4	4,404	3	6,691	4	2,609
	受 託 事 業	0	0	0	0	1	2,500	0	0
	受 託 試 験	0	0	0	0	0	0	0	0
	共 同 研 究	14	5,244	9	4,307	10	4,249	14	5,547
小 計	22	10,007	13	8,711	14	13,440	18	8,156	
寄 附 金	607	32,968	655	30,685	41	21,265	39	17,336	
そ の 他 の 助 成 金 等	0	0	1	3,000	2	6,000	2	4,400	
計	629	42,975	669	42,396	57	40,705	59	29,892	

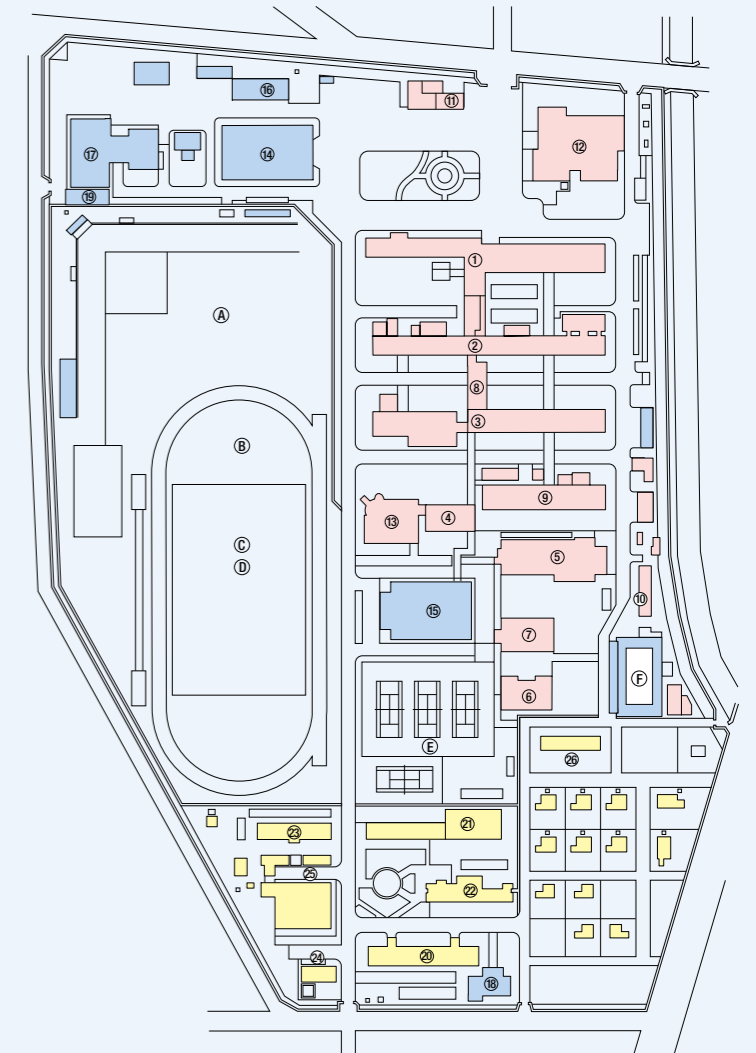
施 設

■ 敷地

使用区分	面積	備 考
校舎等	50,975㎡	野球場、 サッカー・ラグビー場、 400mトラック、 テニスコート(4面)、 プール(25m6コース)等
グラウンド等	37,870	
寄宿舎	10,414	
職員宿舎	7,677	
計	106,936	

■ 建物

区 分	構造	延面積
校舎		
一号館	RC3	4,040㎡
二号館	RC3	3,576
三号館	RC3	3,594
四号館	RC3	660
五号館	RC4	2,428
六号館	RC4	1,155
専攻科棟	RC4	1,160
一般教室棟	RC3	620
テクノセンター	S1	1,002
水理実験室	S1	253
体育教員室	RC1	43
環境都市実験付属家	S1	186
電気実験準備室	S1	63
建築工作実習室	S1	99
車庫・守衛所	RC1	191
図書館	RC2	1,965
福祉施設「伊吹」	RC2	834
ボイラー室等		2,004
小計		23,873
体育施設		
第一体育館	RC2	1,286
第二体育館	RC1	885
武道館	W1	336
安藤記念館	RC1	789
合宿所(凌雲荘)	W1	235
合宿所(第二凌雲荘)	RC1	126
体育器具庫他		821
小計		4,478
寄宿舎		
A寮		1,341
B・C寮		1,543
D寮		1,388
第一女子寮		647
管理・第二女子寮		303
食堂及び浴室他		846
小計		6,068
職員宿舎		1,454
合 計		35,873



- ① 一号館
- ② 二号館
- ③ 三号館
- ④ 四号館
- ⑤ 五号館
- ⑥ 六号館
- ⑦ 専攻科棟
- ⑧ 一般教室棟
- ⑨ テクノセンター
- ⑩ 水理実験室
- ⑪ 車庫・守衛所
- ⑫ 図書館
- ⑬ 福祉施設「伊吹」
- ⑭ 第一体育館
- ⑮ 第二体育館
- ⑯ 武道館
- ⑰ 安藤記念館
- ⑱ 合宿所(凌雲荘)
- ⑲ 合宿所(第二凌雲荘)
- ⑳ A寮
- ㉑ B・C寮
- ㉒ D寮
- ㉓ 第一女子寮
- ㉔ 管理・第二女子寮
- ㉕ 食堂及び浴室他
- ㉖ 職員宿舎
- ㉗ 野球場
- ㉘ 400Mトラック
- ㉙ サッカー場
- ㉚ ラグビー場
- ㉛ テニスコート
- ㉜ プール



各種お問い合わせ

■ 学生に関するお問合せ

(成績・諸証明)

学生課教務係

kyou1@gifu-nct.ac.jp (Tel.058-320-1251)

(就学支援金・奨学金)

学生課学生係

gaku1@gifu-nct.ac.jp (Tel.058-320-1254)

■ 入試に関するお問合せ

学生課入試係

nyushi1@gifu-nct.ac.jp (Tel.058-320-1260)

■ 学生寮に関するお問合せ

学生課寮務係

ryou1@gifu-nct.ac.jp (Tel.058-320-1270)

■ 図書館に関するお問合せ

学生課図書・情報係

to1@gifu-nct.ac.jp (Tel.058-320-1225)

■ 産学連携に関するお問合せ

総務課研究協力係

ken1@gifu-nct.ac.jp (Tel.058-320-1213)

■ 総合窓口

総務課総務・企画係

soum1@gifu-nct.ac.jp (Tel.058-320-1211)

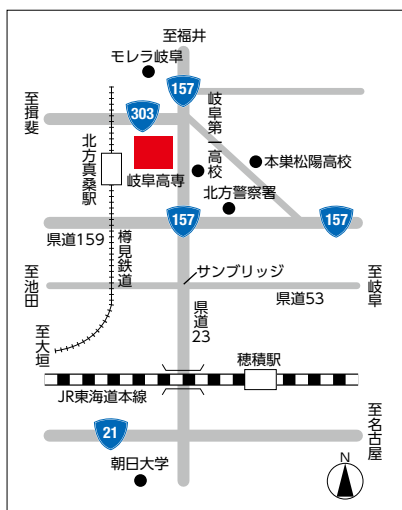
- 機械工学科
- 電気情報工学科
- 電子制御工学科
- 環境都市工学科
- 建築学科

■ 一般科目 (人文・自然)

専攻科

- 先端融合開発専攻

■ アクセス



- ① JR大垣駅から、樽見鉄道で「北方真桑」駅下車、北に約1.2km。
- ② JR岐阜・名鉄岐阜駅から、岐阜バス(モレラ岐阜行)で「モレラ岐阜(終点)」下車、南に約1.2km。
- ③ JR岐阜・名鉄岐阜駅から、岐阜バス(リバーサイドモール行)で「上真桑」下車、北に約1.5km。
- ④ JR穂積駅から、岐阜バス(大野バスセンター行)で「糸貫分庁舎・モレラ南口」下車、南に約0.7km。
- ⑤ JR岐阜・名鉄岐阜駅から、岐阜バス(岐阜高専行)で「岐阜高専(終点)」下車(平日・登下校時のみ)。
- ⑥ 岐阜北高から、岐阜バス(大野バスセンター行)で「上真桑」下車、北に約1.5km(平日・登下校時のみ)。

独立行政法人 国立高等専門学校機構

岐阜工業高等専門学校

National Institute of Technology, Gifu College

〒501-0495 岐阜県本巣市上真桑2236番2

TEL : 058-320-1211(代表) FAX : 058-320-1220

<http://www.gifu-nct.ac.jp>